

科目名	科目担当代表教員	ページ数
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	3
統計の基礎	武田 裕康	8
日本国憲法	池田 杏奈	13
EnglishⅡ(Reading & Writing)	Walzem Allen George	18
English for Study abroad	Walzem Allen George	23
アカデミックジャパニーズⅠ	阿部 仁美	28
アカデミックジャパニーズⅡ	富田 麻知子	33
アカデミックジャパニーズⅢ	傳法 智恵美	38
フランス語Ⅱ	Nicolas Jegonday	43
ロシア語Ⅱ	鈴木 理奈	48
総合中国語Ⅱ	未定	53
総合中国語Ⅳ	未定	58
中国語リスニング	胡 耀光	63
中国語入門Ⅲ	魯 諍	68
朝鮮語Ⅱ	朴 權浩	73
ニセコ国際研修	小山田 健	78
地域連携プロジェクト	渡部 俊弘	83
北海道の社会と文化(多文化共生)	小山田 健	88
Academic English WritingⅡ	Richardson Peter	93
Integrated Academic EnglishⅡ	沢谷 佑輔	98
経済と社会	平岡 祥孝	103
国際関係論	渡部 淳	108
国際機構と国際法	宮本 融	113
国際経済学	宮本 融	118
国際社会学	渡部 淳	123
日本政治経済論	宮本 融	128
アフリカ地域論	吉田 勉幸	133
イギリス研究	Richardson Peter	138
ヨーロッパ地域論	渡部 淳	143
中国研究	魯 諍	148
東南アジア地域論	Richardson Peter	153
北米地域論	Walzem Allen George	158
ICTリテラシー	松岡 審爾	163
インターンシップ	小山田 健	168
マーケティング論	芝 香	173
公務員講座Ⅰ	小山田 健	178
公務員講座Ⅱ	小山田 健	183
日本語の表記と語彙	小西 正人	188
日本語ビジネスライティング	矢部 玲子	193
日本語学	小西 正人	198
日本語教育法Ⅱ	岡本 佐智子	203

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第7回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(3) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンピプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(6) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
社会で必要となるスキルのひとつである、データ解析を中心とした科学的分析力を修得する科目である。 「統計と社会調査法」(健康、理学、作業)、「医療統計学」(理学)、「理学療法研究」(理学)と連携している教養科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							
1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。 2. 統計的推定の考え方を説明することができる。 3. 統計的検定の考え方を説明することができる。 4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。 5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。 フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～p136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第5回	【推測統計③】統計的検定の基本の手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り（第1種の過誤、第2種の過誤）を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)	

その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第4版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		
なし。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
人間社会のルールの1つである日本国憲法を学ぶことにより、幅広く教養を身につける科目である。							
授業の概要							
本科目では、日本国憲法が保障する基本的人権について概説する。その基礎として、「憲法」という語が意味する具体的内容や、人権が形成されてきた歴史といった総論的論点を学んだ上で、自由権、社会権等の基本的人権が保障されることの重要性を理解する。							
到達目標							
1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。 2. 様々な基本的人権について概要を述べることができる。 3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。							
授業の方法							
パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。 各講義中に毎回コメントシート(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)を提出する。 確認テストを時間内に行う(全15回)。提出方法についてはGoogle フォームを併用できるようにする予定である。							
ICT活用							
Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要について学ぶ。	特になし。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」 「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるのかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」 「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」 「Theme18 首相の選び方——内閣」 「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(120分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の上皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」 「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」 「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業中で提出するコメントシート(全15回)により評価する。	

その他	0	なし。
教科書		
初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（2020年、有斐閣）		
参考文献		
講義中に適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English II (Reading & Writing)				ナンバリング	1212
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
本講座の方針は、北海道や日本、そして世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を養うことである。(思考力・判断力・表現力)							
授業の概要							
この授業は、基礎的な英文テキストにおける読解能力の育成、および英文ライティングの基礎の習得を目的とする。読解においては、さまざまジャンルの英文テキストを通して構文把握能力と基本的な読解方略の習得を目指す。そしてライティングにおいては、自身が意図した意味の文の生成をすること、そして文と文のつながり(結束性)を意識して複数の文をつなげ、まとまり(首尾一貫性)のある文章を作ることができ、最終的にパラグラフライティングの基礎を習得することを目標とする。							
到達目標							
The aim of this course is to improve students’ reading comprehension skills in basic English texts and to acquire the basics of English writing in an English-only class environment.							
授業の方法							
Text analysis, vocabulary building, group discussions, sentence writing activities, and peer editing will be the main components of this course							
ICT活用							
The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.							
実務経験のある教員の教育内容							

The teacher has extensive teaching experience and training, including an MA in English Education.

課題に対するフィードバックの方法

There will be regular oral feedback during class time. In addition, answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and notedown any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Discuss the themes of population and cell phone usage. Focus on the “A Day on Planet Earth” reading and completing the writing assignment associated with the reading.	Read pages 2 to 7 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第3回	Practice the skimming for gist skill and then complete activities to prepare for the “A Day in a Life” reading. Begin practicing your writing skills by producing sentences using the simple present tense.	Read pages 8 to 15 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第4回	Explore the writing process by thinking about brainstorming, planning, drafting, and revising. Consolidate these skills with writing tasks linked to drafting and revising.	Read pages 15 to 20 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第5回	Discuss the theme of global literacy and focus on key vocabulary related to this theme. Read through and test your understanding of the “The World’s Oldest First Grader” reading and practice making inferences from the content.	Read pages 21 to 27 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第6回	Build vocabulary and practice the reading skill of understanding main ideas, and then apply that skill to the “Global Education” reading along with the skills of understanding the gist and inferring.	Read pages 28 to 34 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第7回	Continue developing the ability to go through the writing process of brainstorming, planning, drafting, and revising by focusing on a more challenging, technical topic.	Read pages 35 to 40 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第8回	Review of the first half of the course, midterm test, and midterm writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge, and work on addressing them.
担当教員			
第9回	Discuss the theme of family history and study the related key vocabulary. Go through the “The Story of Us” and “From Africa to Astoria” readings and test your understanding and of the texts through comprehension and critical thinking writing activities.	Read pages 41 to 47 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第10回	Practice looking up difficult words and paying attention to context to find the right meaning. Apply this skill to the reading “Our Family Journey” and discuss in your groups your thoughts about the text.	Read pages 48 and 54 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第11回	Continue to develop key writing skills by focusing on how to write factual and speculative statements related to the theme of family members. Practice using peer evaluation to further revise and edit your work.	Read pages 55 and 60 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第12回	Explore the theme of recycling and making money from stuff people throw away. Go through the reading “Garbage Island” and try to come up with solutions for some of the problems raised in the text. In addition, practice finding supporting ideas in the reading.	Read pages 62 and 69 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第13回	Study the “Art of Recycling” reading and test your understanding with activities related to the skills of understanding the gist, scanning for key details, and identifying supporting ideas. Practice writing with a focus on giving advice and making suggestions.	Read pages 70 and 75 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第14回	Continue the writing practice with a focus on modals like should and could and the skill of using details to clarify ideas. Go through the “Toaster Project” reading and test your understanding by practicing the skill of scanning and identifying key details.	Read pages 76 and 80 and pages 84 to 87 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第15回	Review of the course, final test, and final writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm and final exams 40 Attendance and participation 30 writing assignments and other classwork 30	

その他	0	
教科書		
Pathways 1A, Reading, Writing, and Critical Thinking by Mari Vargo and Laurie Blass. Publisher: National Geographic Learning. 2020		
参考文献		
It may be useful to have a dictionary.		
履修条件・留意事項等		
Please bring textbook, paper, writing utensil, and dictionary to every class.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English for Study abroad				ナンバリング	1214
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
HBUの方針に従い、北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につけることを目的としています。(思考力・判断力・表現力)							
授業の概要							
この授業は、語学研修の参加に必要な英語のスキルと同時に空港での手続や現地での生活といったプログラムの参加に必要な関連知識を身につけることを目的とする。授業では、出発前から帰国までの場面別に遭遇する出来事に関連するトピックでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のうち、複数の技能を統合した言語活動を通して、どの技能もバランスよく習得し、語学研修に必要な英語能力を身につけることを目標とする							
到達目標							
Students will learn to better understand and express pragmatic daily English, for situations in airports, restaurants, banks, hospitals, etc. as well as learning vernacular “common” English used by their foreign peers in more informal social settings.							
授業の方法							
The basis of the class is lecture, with many examples from movies and TV shows, for both listening practice and better cultural understanding. Students will also do pair work to practice dialogs, role-plays, and information exchange activities.							
ICT活用							
There will be a lot of multi-media in the class. Students may be able to use their own devices for certain activities, depending on the lesson.							
実務経験のある教員の教育内容							

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive constant feedback on pronunciation and other oral issues in class activities, as well as written feedback on quizzes, tests, and presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class introduction. Rules. Expectations. Syllabus. Topic 1: Here you are!	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.
担当教員			
第2回	Getting to know you—meeting people, greetings .Students will learn and practice basics for interacting with strangers in initial meeting.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.
担当教員			
第3回	Money and Money Culture . Students will read about US currencies, and practice shopping and questioning skills.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Section Review 1 90min
担当教員			
第4回	(Vocab Quiz 1) Relaxation and Culture Shock --learn how to avoid culture shock and loneliness in foreign environment.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.
担当教員			

第5回	Home life—Domesticity --examine differences in typical American home life compared to Japan and other countries.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.
担当教員			
第6回	Emergencies “Send Help!” Students will learn how to handle an emergency situation, calling 911, describing problems.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Section Review 2 90min
担当教員			
第7回	(Vocab Quiz 2) Food Culture --Learn how to order food, learn about American eating habits	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Practice describing local foods. How do they differ from western popular foods? Where do they overlap?
担当教員			
第8回	“Give yourself some Credit” Learn how to order, use, and avoid debt with US credit cards and banking.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Review vocabulary and reading. 90 Min.
担当教員			
第9回	More Help is on the way! Emergency situations, talking to doctors about medical problems.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Section Review 3 90min
担当教員			
第10回	Shopping, Consumer culture --Students will contrast US spending patterns with Japanese norms.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Do writing questionnaire and homework.
担当教員			

第11回	Schools and teaching US vs Japanese approaches Students will describe differences in various countries' education systems	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Go over chat worksheet for international "chat time."
担当教員			
第12回	Health and Safety -- Rules and laws will be explained for staying out of trouble and avoiding injury	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep for vocabulary quiz! 90 Min
担当教員			
第13回	(Vocab Quiz 3) Fun activities Students will learn rules of American football, and various outdoor activities.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Look at safety check sheet. Answer questions. Please use full sentences!
担当教員			
第14回	"Who are these people?" Students will learn about various culture and ethnic groups in the U.S.	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Prep for final exam.
担当教員			
第15回	Final exam	Review materials covered.	Prep final response paper. Due one week from last class!
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	Tests and quizzes 70	

その他	30	Presentations and participation 30
教科書		
College the American Way: A Fun ESL Guide to English Language and Campus Life in the U.S. (English theAmerican Way: Fun ESL Learning) Paperback - Illustrated, November 15, 2016 by Sheila Mackechnie Murtha (著), Jane Airey O'connor (著) ISBN-10 : 0738612138 ISBN-13 : 978-0738612133		
参考文献		
A good dictionary would be very useful.		
履修条件・留意事項等		
Please come to class on time, with textbook, notebook, and pen. Be ready to start class when class-time starts.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅠ				ナンバリング	1255
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅡ・Ⅲ」と並行して授業を進める。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。							
到達目標							
大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を読みのストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際にレポートを書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 講義やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	L7 読み物 異文化での気づき①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L7 書く 経験からの学び	モデル作文を読んでもおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L8 読み物 インタビューに見るプロ意識②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L8 書く インタビュー記事	モデル作文を読んでもおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L9 読み物 小説・エッセイを通じて感じる愛②	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L9 書く 小説や映画のレビュー	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L10 読み物 データから考える社会②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L10 書く データ分析	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L11 読み物 言葉の裏にあるもの②	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L11 文型・表現②	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L12 読み物 日本社会への声①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L12 文型・表現①	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L12 書く 小論文	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	上級へのチャレンジ②	この課で学ぶ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	上級へのチャレンジ⑤	この課で学ぶ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(5%)＊6回、小テスト(20%)＊3回、小テスト(話す・聞く) (10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅡ				ナンバリング	1256
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	富田 麻知子						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅲ」と並行して授業を進める。							
授業の概要							
この授業は、「アカデミックジャパニーズⅠ」と連動し、外国人留学生が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、ここでは2,000字程度の日本語文献の読解練習と、比較的長い解説・論説映像の視聴解演習をとおして、日本語で意見交換やレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。							
到達目標							
大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を読みのストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際にレポートを書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 講義やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	L7 読み物 文化での気づき②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L7 文型・表現	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L8 読み物 インタビューに見るプロ意識①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L8 文型・表現	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L8 読み物 小説・エッセイを通じて感じる愛① 小テスト(L7・L8)	小テストの準備をしておくこと(60分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L9 文型・表現	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L10 読み物 データから考える社会①	新出語彙の確認をしておくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L10 文型・表現	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L11 読み物 言葉の裏にあるもの① 小テスト(L9・L10)	小テストの準備をしておくこと(40分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L11 文型・表現①	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L11 書く 日本語と母語の違い	モデル作文を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L12 読み物 日本社会への声②	読み物の熟読・理解をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	12 文型・表現②	この課で学ぶ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	上級へのチャレンジ①	この課で学んだ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	上級へのチャレンジ③ 小テスト(L11・L12)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(5%)＊6回、小テスト(20%)＊3回、小テスト(話す・聞く) (10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜、紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅢ				ナンバリング	1257
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	傳法 智恵美						
授業の位置づけ							
日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の運用能力を高める科目である。この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につける科目である。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅱ」と並行して授業を進める。							
授業の概要							
この授業は、「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ」科目に連動し、外国人留学生が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、ここでは2,000字以上の日本語文献の速読練習を中心に、日本語で建設的な意見やレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着・運用できることを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうため、新聞や論説動画などを用いたタスク型の演習を行う。							
到達目標							
大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。 1) 読解を通して、文型表現を讀みのストラテジーを学ぶことができる。 2) 読んで学んだことをもとに実際にレポートを書くことができる。 3) 様々な場面で必要な話し方ができる。 4) 講義やスピーチを聞いて、質問に答えることができる。							
授業の方法							
教科書、配布物などを活用しながら、授業を進める。 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。 小テストを実施する。							
ICT活用							
課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストやレポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	L7 話す 国際交流	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L7 聞く 異文化コミュニケーション	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L8 話す 大切なもの	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第4回	L8 聞く 温泉事情	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第5回	L9 話す ある日の出来事	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L9 聞く ペットに関する社会事情		授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第7回	L10 話す 学生生活	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L10 聞く 格差社会	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L11 話す コミュニケーションスタイル	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第10回	L11 聞く 若者のコミュニケーション	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第11回	L12 話す 人や社会とつながり	モデル会話の確認をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L12 聞く 求められる人材	聴解ページの問題を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第13回	L12 小クイズ(話す・聞く)	小テストの準備をしておくこと。(60分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	上級へのチャレンジ④	この課で学ぶ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	上級へのチャレンジ⑥	この課で学ぶ文法項目を確認・理解しておくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(5%)*6回、小テスト(20%)*3回、小テスト(話す・聞く) (10%)	

その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
『4技能でひろがる中級日本語カルテット1』／安井 朱美ほか／The Japan Times 『4技能でひろがる中級日本語カルテット1 ワークブック』／安井 朱美ほか／The Japan Times		
参考文献		
適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語Ⅱ				ナンバリング	3282
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「フランス語Ⅰ」の発展となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、「フランス語Ⅰ」に続き、フランス語の発音の規則に慣れ、文法の基礎を学習することを通して、フランス語の理解と表現に欠かせない基礎を習得する。学習した単語や文法知識を用いて、簡単な内容の短い文章や会話を理解できることを目指す。また、フランス語の短い会話や文章を、正しい発音で読んだり話したりを練習し、フランス語の基本文法や語句を使って、簡単な内容を表現できるようになる。また、フランス語の学習を通してフランス語圏の文化や社会への理解を深める。							
到達目標							
1,会話の中でよく使う動詞の活用を習得する。 2,過去、未来時制の表現を理解し応用できる。 3,日常の会話を楽しむことができる。							
授業の方法							
授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的ゆっくり進みますが、復習は欠かせません。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	フランス語 I で習ったことを復習する。	0分	復習:180分
担当教員			
第2回	一日の行動に関する表現を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第3回	自分の行動を伝える。相手の行動を聞く。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第4回	過去系を習う。複合過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第5回	過去の出来事を伝える。半過去。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第6回		復習:90分	復習:90分
担当教員			
第7回	未来形を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第8回	予定を伝える。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第9回	食に関する単語を習う。部分冠詞。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第10回	食生活について話す。	復習:90分	復習:90分
担当教員			

第11回	カフェやレストランで使う表現を習う。ロールプレー。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第12回	天気に関する単語を習う。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第13回	天気についてはなす。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第14回	街や大学に関する表現を習う。道案内をする。	復習:90分	復習:90分
担当教員			
第15回	まとめ。	復習:180分	復習:90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。	

その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1[三訂版]高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著/ Cédric YAHYAOUÏ 著 三修社 ISBN978-4-384-22055-1 C1085		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語Ⅱ				ナンバリング	3292
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「ロシア語Ⅰ」の発展となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、「ロシア語Ⅰ」に続き、ロシア語の文字に慣れ、簡単な文章を読み、短い文章が書けるようにロシア語の初級基礎文法を習得する。ロシア語の短い文章を、正しい音声の音読と精読で演習し、そのトピックに関する意見を簡単に表現できる力を身に付ける。ロシア語学習とともにロシアの生活習慣や文化についても学び、北海道とロシアの共通と異なりへの理解を深めていく。							
到達目標							
ロシア語の基礎的学習をふまえて、1. 基本的な単語や文を聞き取れる、2. 単純な文を読んで内容が分かる、3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる、4. 簡単な文章を書ける							
授業の方法							
板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。 配布印刷物および視聴覚メディア（DVD、CDなど）の補足教材も活用し説明を行う。							
ICT活用							
該当なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。
レポート課題は、提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	格変化について	シラバスに目を通して、教科書p62「格について」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語的特徴について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	第7課 с я 動詞, 前置詞と前置格, 名詞の前置格(場所の表現, ~について), 人称代名詞の前置格	教科書p50-51の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	第8課 所有の表現, 命令形	教科書p54-55の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第4回	第9課 名詞の対格(直接目的), 人称代名詞の対格	教科書p60-61の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第5回	第10課 名詞の対格(行き先の表現), 運動の動詞	教科書p64-65の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	練習問題, 挨拶表現, 文法チェック	教科書p50-69練習問題の新出単語, p70-71「単語力アップ」「表現力アップ」, p72-75の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第7回	第11課 動詞の過去形, 場所の表現, 「勉強する」の表現	教科書p76-77の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	第12課 動詞「б ы т ь」の過去形, 天候の表現	教科書p80-81の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	第13課 動詞「б ы т ь」の未来形, 病気の表現, 動詞の不規則変化	教科書p86-87の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第10回	第14課 名詞の生格(所有, 所属, 否定), 人称代名詞の生格	教科書p90-91の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第11回	第15課 名詞の与格(間接目的), 人称代名詞の格変化, 許可の表現	教科書p98-99の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第16課 名詞の造格(手段, 前置詞 c), 人称代名詞の造格, 必要の表現	教科書p102-103の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第13回	第17課 名詞の対格(活動体名詞), 個数詞	教科書p96-97「単語力アップ」「表現力アップ」, p118-119の「単語力アップ」「表現力アップ」の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p76-107練習問題の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p50-110で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど	

その他	0	
教科書		
「ニューエクスプレスプラスロシア語」黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		
辞書は,「パスポート初級露和辞典」米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅱ				ナンバリング	2242
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	未定						
授業の位置づけ							
中国語の総合的な表現能力を高めるための科目である。世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力および世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける。「総合中国語Ⅰ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の語学に必要な4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。1年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」能力の上に、中級レベルにふさわしい、より高度な表現能力を身につけることができるようにする。中国語には生活習慣などに起因する、他文化圏の人々には理解しがたい特殊な表現がある。これらの表現は、日本人が苦手とし、理解しがたいものが多いが、とても大切な表現となる。授業では、これらの理解しがたい中国語の表現についても触れる。							
到達目標							
中国人と日常的な会話をすることができる。							
授業の方法							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を解かせて、受講生の理解度を確認する。 Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	I、ガイダンス II、第1課 朝の公園 公園で運動する習慣について説明する	学習予定部分 (p.10~13)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第2回	第3課 餃子 中国の餃子と日本の餃子の違いについて紹介する	学習予定部分 (p.18~21)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	第4課 寒くないか 表現のしたかの違いについて学ぶ	学習予定部分 (p.22~25)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第4回	第6課 お見合いコーナー 中国の多くの都市の公園にある「お見合いコーナー」の風景を紹介する	学習予定部分 (p.30~33)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			

第5回	第9課 無洗米 「闺蜜」とは？ 中国のプレゼント事情	学習予定部分 (p.42~45)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			
第6回	第10課 温かいものを食べたい 中国人の「冷たいものを避ける習慣」について説明する	学習予定部分 (p.46~49)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			
第7回	第12課 プライバシー 中国のプライバシー観念について説明する	学習予定部分 (p.54~59)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			
第8回	第13課 曖昧な日本語 表現の仕方の違い	学習予定部分 (p.60~63)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			
第9回	第15課 呼び方 中国では人に呼び掛ける時に、どのような呼び方をす るかについて説明する	学習予定部分 (p.68~71)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			
第10回	第19課 他人行儀 南北の差異について説明する	学習予定部分 (p.84~87)を予習 すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業まで に音声ファイルを提出すること。 (90分)
担当教員			

第11回	第20課 スイカがシヨッパイ 果物の食べ方の違いについて説明する	学習予定部分 (p.88~91)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	第21課 白い花 中国人の色に対するこだわり	学習予定部分 (p.92~95)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	第23課 見送り 中国人のおもてなしについて紹介する	学習予定部分 (p.100~103)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	第24課 縁起を担ぐ 「縁起の悪い」とされるもの	学習予定部分 (p.104~107)を予習すること(90分)	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	復習および小テスト	これまで学習した内容を復習すること。(90分)	小テストの内容を確認する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋ペアワーク(30%)＋小テスト(40%)	

その他	0	無断欠席は必ず減点要素とする。
教科書		
『マンが日中いぶこみ劇場』相原茂、費燕、蘇明編著 富田淳子作画 朝日出版社		
参考文献		
『実用現代漢語語法』劉月華など著 北京 商務印書館		
履修条件・留意事項等		
初級中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(1年生後期)と総合中国語Ⅰ(2年生前期)のいずれの科目を履修したほうがよい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅳ				ナンバリング	3244
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	未定						
授業の位置づけ							
この授業は、中国語を媒介としたコミュニケーション能力を修得する科目である。世界と繋がるために、地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけ、グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。「総合中国語Ⅲ」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。2年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」のレベルアップした表現能力を身につけることができるようにする。総合的な中国語コミュニケーション能力をアップすることができるようになる。つまり、ただ単に読んで理解することができるだけでなく、目的や場面に合わせた聴力・会話能力を身に付ける。							
到達目標							
1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。 3.より自然な中国語を話せるようになる。							
授業の方法							
原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行い、中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。							
ICT活用							
公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス、前期の復習	前期の復習(合計の所要時間90分程度)	前期の復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第2回	第7課 問路	第7課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第7課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第3回	第7課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(合計の所要時間90分程度)	第7課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第4回	第8課 電話	第8課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第8課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			

第5回	第8課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第8課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第6回	第9課 购物	第9課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。 (合計の所要時間90分程度)	第9課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第7回	第9課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第9課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第8回	第10課 饮食	第10課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。 (合計の所要時間90分程度)	第10課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第9回	第10課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第10課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第10回	第11課 健康	第11課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。 (合計の所要時間90分程度)	第11課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。 (合計の所要時間90分程度)
担当教員			

第11回	第11課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第11課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第12回	第12課 社会	第12課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(合計の所要時間90分程度)	第12課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第13回	第12課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。 (合計の所要時間90分程度)	第12課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第14回	第7～12課 総復習と口述テスト	口述テストの作文を完成すること (合計の所要時間90分程度)	期末試験に備えて復習すること (合計の所要時間90分程度)
担当教員			
第15回	まとめおよび期末テスト	授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第7～12課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)	期末試験の見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%	

その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月 ISBN978-4-7647-0678-1		
参考文献		
授業内で適宜指示		
履修条件・留意事項等		
授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語リスニング				ナンバリング	2247
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 耀光						
授業の位置づけ							
実用的な会話とリスニング練習を通して中国語の「耳」と「口」を鍛え、場面に応じて、リスニングと会話を中心として自然に中国語で簡単なコミュニケーションを取るための科目である。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働を可能とし、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける科目であり、1年次の中国語科目の発展科目であるとともに、「中国語コミュニケーション」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、「話す、聴く、書く、読む」に代表される語学力の中で、「聴く」能力に的を絞り講義を進める。中国語を母語とする人々が話すことばを聞いて分かるようになるためには、色々な人々の語る色々な内容を正しく認識しなければならない。中国語を日本語に直して聴くのではなく、中国語をそのまま中国語で聴く練習を通して、「聴く」力の向上に努める。学習者は、中国人の思考方式に合わせて中国語が聴けるようになり、コミュニケーション能力を向上させることができ、スローなスピードで設定された場面において単純な会話を聞き取れるようになる。							
到達目標							
1. 正確で自然な発音と基本的な語彙および文法を身に付けること。 2. 旅とおもてなし等に役に立つ簡単な日常会話ができるようになること。 3. 中国語検定3級、HSK3レベルに達すること。							
授業の方法							
・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき1.5～2回で学ぶ。 ・単語、本文の発音を学び、軽く文法の学習と練習問題。後は、ペアで発音の練習と応用会話練習を行う。 ・講義を通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。							
ICT活用							
必要に応じて、ICTを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前または後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	第一課【自己紹介】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	第一課【自己紹介】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	第二課【上学】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	第二課【上学】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	第三課【爱好】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	第三課【爱好】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	中間テストおよび解説	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第四課【日程安排】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	第四課【日程安排】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	第五課【点菜】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	第五課【点菜】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	第六課【看病】 1. 単語・本文の発音 2. ポイント(会話練習の形で)	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	第六課【看病】 3. 総合練習 4. ペアで会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	総合会話	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	期末テストおよび復習	音声を利用して授業内容を予習すること。(180分)	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内テスト(中間・期末テスト)60%程度、小テスト・会話・レポート・授業参加度 40%程度	

その他	0	
教科書		
『しゃべくり中国語 場面による中国語会話』／内田慶市・張軼欧／金星堂		
参考文献		
『Why? にこたえる初めての中国語の文法書』／相原茂・石原田知子・戸沼市子／同学社		
履修条件・留意事項等		
・ 出席・授業参加を重視する。 ・ 予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。 ・ 質問がある場合、いつでも聞くこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅲ				ナンバリング	1233
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」と関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、前期の中国語入門Ⅰ・Ⅱより、更に高いレベルの語学力を修得するための科目である。							
</							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された音声宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	第15課 I、オリエンテーション II、経験を表す助詞“过”と比較を表す前置詞“比”をマスターする。	前期科目「中国語入門Ⅱ」の内容(p.6~83)を復習し、学習予定部分(p.84~p.87)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.89の振り返りシートを完成すること。p.85の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第2回	第16課 I、助動詞“会”; II、二重目的語構文をマスターする。	学習予定の部分(p.90~93)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.95の振り返りシートを完成すること。p.91の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第3回	第17課 I、助動詞“可以”; II、副詞“有点儿”と名詞“一点儿”について学ぶ。	学習予定の部分(p.96~99)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.101の振り返りシートを完成すること。p.97の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第4回	第18課 I、様態補語; II、時間の長さ(時量)について学ぶ。	学習予定の部分(p.102~105)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.107の振り返りシートを完成すること。p.103の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			

第5回	第19課 I、結果補語; II、回数の言い方について学ぶ。	学習予定の部分(p.108~111)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.113の振り返りシートを完成すること。p.109の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第6回	第20課 I、“是～的”構文; II、禁止を表す“別”と“不要”をマスターする。	学習予定の部分(p.114~117)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.119の振り返りシートを完成すること。p.115の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第7回	第21課 I、方向補語; II、動作行為の完了を表すアスペクト助詞“了”について学ぶ。	学習予定の部分(p.120~123)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.125の振り返りシートを完成すること。p.121の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第8回	第22課 I、動作行為の進行を表す表現; II、可能補語について学ぶ。	学習予定の部分(p.126~129)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.131の振り返りシートを完成すること。p.127の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第9回	第23課 I、前置詞“离”、“从”、“到”; II、程度補語をマスターする。	学習予定の部分(p.132~135)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.137の振り返りシートを完成すること。p.133の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第10回	第24課 I、助動詞“能”; II、助動詞“会”(蓋然性の使い方)をマスターする。	学習予定の部分(p.138~141)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.143の振り返りシートを完成すること。p.139の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			

第11回	第25課Ⅰ、使役表現;Ⅱ、主述述語文をマスターする。	学習予定の部分(p.144~147)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.149の振り返りシートを完成すること。p.145の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第12回	第26課“把”構文と存現文をマスターする。	学習予定の部分(p.150~153)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.155の振り返りシートを完成すること。p.151の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第13回	第27課Ⅰ、不定疑問文;Ⅱ、受け身表現をマスターする。	学習予定の部分(p.156~159)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.161の振り返りシートを完成すること。p.157の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第14回	第28課Ⅰ、助詞“着”;Ⅱ、“就要～了”について学ぶ。	学習予定の部分(p.162~165)について、予習すること。(90分)	よく復習し、p.167の振り返りシートを完成すること。p.163の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業までに提出すること。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ、復習、小テスト これまで学習した中国語の基本文型を用いて、場面を設定し実際に会話の訓練をした後、小テスト。	第15課～28課の内容を復習し、十分に準備すること。(90分)	テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習、課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(20%)＋小テスト(50%)	

その他	0	
教科書		
『いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社		
参考文献		
『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館		
履修条件・留意事項等		
出席と宿題を重視する。無断欠席は減点要素になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語Ⅱ				ナンバリング	3272
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	朴 権浩						
授業の位置づけ							
この科目は世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目である。3年次前期科目「朝鮮語Ⅰ」の発展科目である。							
授業の概要							
この授業は「朝鮮語Ⅰ」に続き、初級レベルの朝鮮語を総合的に学ぶ。ハングル文字表記に慣れ、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文法や語句を使って、日常生活における出来事や考えを簡単に表現できるようになる。韓国からの観光客へのおもてなし表現や、韓国旅行で役に立つトラベルフレーズなど、実践的な朝鮮語コミュニケーションを基本文型で表現できるようになることを目指す。							
到達目標							
朝鮮語の基礎文法の学習を通じた基本的な文書の読解と作文能力を身につける。 大きい声で練習することによって発音の規則に習熟し、また多様な場面での会話の練習を通じて状況に応じた基本的なコミュニケーションと日常の会話の能力を身につける。 ハングル能力試験4～5級合格程度の能力を身につける。							
授業の方法							
授業は、前期に学習した正確な読み書きと基本会話を基礎にして朝鮮語の基礎的な文法や文型を会話を通じて学んでいく。学生一人ひとりの学習レベルと状況にあわせた実践の会話練習を通じて全員が積極的にまた楽しく朝鮮語を学んでいくことができるように指導する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出方法、フィードバック方法については、授業開始時に具体的に提示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	前期の朝鮮語Ⅰの総括復習 ①子音と母音、パッチムの発音 ②～ます、です形と否定文など	朝鮮語Ⅰの総括的な復習をする。(90分)	朝鮮語Ⅰの総括的な復習をする。(90分)
担当教員			
第2回	用言(動詞、形容詞)の活用①:グループⅠの表現の活用 ~고, ~고 싶어요, ~지요?, ~지만などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グループⅠの表現の活用方法を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	用言(動詞、形容詞)の活用①:グループⅠの表現の活用 ~고, ~고 싶어요, ~지요?, ~지만などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グループⅠの表現の活用方法を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	用言(動詞、形容詞)の活用②:グループⅡの表現の活用 ~(으)면, ~(으)니까, ~(으)세요, ~(으)니까요?, ~(으)버시다, ~(으)를 수 있어요/없어요, ~(으)ㄴ 적이 있어요/없어요などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グループⅡの表現の活用方法を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	用言(動詞、形容詞)の活用②:グループⅡの表現の活用 ~(으)면, ~(으)니까, ~(으)세요, ~(으)니까요?, ~(으)비시 다, ~(으)르 수 있어요/없어요, ~(으)ㄴ 적이 있어요/없 어요などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅡの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	用言(動詞、形容詞)の活用②:グループⅡの表現の活用 ~(으)면, ~(으)니까, ~(으)세요, ~(으)니까요?, ~(으)비시 다, ~(으)르 수 있어요/없어요, ~(으)ㄴ 적이 있어요/없 어요などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅡの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	用言(動詞、形容詞)の活用②:グループⅡの表現の活用 ~(으)면, ~(으)니까, ~(으)세요, ~(으)니까요?, ~(으)비시 다, ~(으)르 수 있어요/없어요, ~(으)ㄴ 적이 있어요/없 어요などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅡの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	用言(動詞、形容詞)の活用③:グループⅢの表現の活用 ~아/어요, ~아/어서, ~아/어도, ~아/어야, ~아/어 주다, ~아/어 보다, ~아/어 보이다などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅢの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	用言(動詞、形容詞)の活用③:グループⅢの表現の活用 ~아/어요, ~아/어서, ~아/어도, ~아/어야, ~아/어 주다, ~아/어 보다, ~아/어 보이다などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅢの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	用言(動詞、形容詞)の活用③:グループⅢの表現の活用 ~아/어요, ~아/어서, ~아/어도, ~아/어야, ~아/어 주다, ~아/어 보다, ~아/어 보이다などの活用方法	用言(動詞、形容詞)の活用:グ ループⅢの表現の活用方法を 事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	用言(動詞、形容詞)の活用④:連体形の活用 ー動詞の過去、現在、未来の連体形活用:(㉟)ㄴ+名詞, ㄴ+名詞, (㉟)ㄹ+名詞	動詞の過去、現在、未来の連体 形活用:(㉟)ㄴ+名詞, ㄴ+名詞, (㉟)ㄹ+名詞の連体形の活用方 法を事前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	用言(動詞、形容詞)の活用④:連体形の活用 ー形容詞の連体形活用:(㉟)ㄴ+名詞	形容詞の連体形活用:(㉟)ㄴ +名詞の連体形の活用方法を事 前に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	用言(動詞、形容詞)の活用⑤:不規則活用 ー母音の不規則活用:㉟不規則と ㄹ不規則	母音の不規則活用:㉟不規則と ㄹ不規則の活用方法を事前に 把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	用言(動詞、形容詞)の活用⑤:不規則活用 ーパッチムの不規則活用:ㄹパッチム不規則活用、ㄴパッチ ム不規則活用、ㄴパッチム不規則活用、ㄴパッチム不規則 活用、ㄹパッチム不規則活用	パッチムの不規則活用:ㄹパッ チム不規則活用、ㄴパッチム不 規則活用、ㄴパッチム不規則活 用、ㄴパッチム不規則活用、ㄹ パッチム不規則活用方法を事前 に把握する。(90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	用言(動詞、形容詞)の活用⑤:不規則活用 ーパッチムの不規則活用:ㄹパッチム不規則活用、ㄴパッ チム不規則活用、ㄴパッチム不規則活用、ㄴパッチム不規則 活用、ㄹパッチム不規則活用	パッチムの不規則活用:ㄹパッ チム不規則活用、ㄴパッチム不 規則活用、ㄴパッチム不規則活 用、ㄴパッチム不規則活用、ㄹ パッチム不規則活用を把握する (90分)	当日の内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業中に小テストの実施、また課題提出や発表などの参加度を総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
(『できる韓国語 初級 II (新装版)』/ 李志暎 / アスク)		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		ニセコ国際研修				ナンバリング	1510
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	小山田 健、渡部 淳、矢部 玲子、渡部 俊弘、沢谷 佑輔、小山田 健、Richardson Peter、Walzem Allen George、宮本 融						
授業の位置づけ							
就業体験をとおして、国際的な感覚や社会人として必要な知識やスキルを身につける。その過程で、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定を行う機会とする。また、これまで各授業で学んだ知識やスキルを、実践の場で活用していく。そのことで、世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。							
授業の概要							
この研修は、国際リゾート地として有名なニセコをはじめ、ルスツ、キロロなど、外国人観光客や外国人居住者が多い北海道の国際化推進地域において、インターンシップと国際交流、そして地域交流などを融合させた、異文化体験や地域社会の多様性の理解を促進するものである。国内での研修ではあるが、研修内容は多言語・多国籍の人々と英語をリンガフランクとして用いることから国際研修と称する。身近な地域にある北海道と世界のつながりや、北海道の新しい社会的多様性に触れながら、体験型の学びを行うことを目的としている科目である。							
到達目標							
・実際の就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかを討議できるようになる。 ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。 ・これまで習得してきた語学などの様々な知識などを、実践の場で使用できるようになる。 ・研修する地域の現状と課題について討議できるようになる。 ・研修やグループワークを通じ、多様な価値を受け止め、他者を理解する力を身につける。また、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定が出来るようになる。							
授業の方法							
「オリエンテーション」「事前研修」「実施研修／インターンシップ（フィールドワークや地域交流なども含む）」「事後研修」の4方式で行う。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	[オリエンテーション] ・ニセコ国際研修について ・受入エリアについて ・受入先について	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	研修を希望する受入先を検討し、指定する期日までに提出すること。提出の際は、その受入先を、なぜ希望するのかの理由も書いてもらう。(90分)
担当教員			
第2回	[オリエンテーションⅡ] ・受入先について ・今後のチーム編成発表 ・チーム面談 →コロナ禍のため、受入先やチーム編成は、決定後も変更になる場合も有り。また、面談は、複数の日付にわけて行う場合も有り。	実施研修をとおり、自分が受入先から怒られるかもしれないことや、褒められるかもしれないことを想像し、書き出しておくこと(90分)	決定した受入先と、そのエリアについて調べておくこと(90分)
担当教員			
第3回	[事前研修Ⅰ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する①～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →編成したチームメンバーの一人一人に各役割を与え、こちらが与えるテーマについて調べてもらう。そのテーマを、他のチームメンバーにも共有した上でブラッシュアップし、まとめたことを発表する。	チームで活動にするにあたって、自分が取るべき行動で重要だと思うことを書き出しておくこと。また、チームでの活動の意欲を低減させたり迷惑をかける行為について、考えられることも、書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し、まとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	[事前研修Ⅱ] ～受入先、受入先エリア、社会人に必要な能力について理解する②～ ・受入先について ・受入先のエリアについて ・社会人に必要な知識について ・その他 →事前研修Ⅰのブラッシュアップ →事前研修Ⅱでは、受入先の方に、事前のレクチャーを行っていただく予定。ただし、コロナ禍であるため、日程や順序等が変更する場合も有り。	学生と社会人の違いについて、考えられることの全てを書き出しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し、まとめておくこと(90分)
担当教員			

第5回	[事前研修Ⅲ] ～何を学びに行くのかを明確にする～ ・実施研修(インターンシップ)に向けた目標の設定 ・研修についての最終説明 →「学びたいこと」「身につけたいこと」「伸ばしたい能力」について目標の設定を行う。	実施研修(インターンシップ)で、自分が何を学びたいのかを考え抜いておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	[実施研修／インターンシップ] 1日目／移動、実施研修準備 2日目／実施研修 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	[実施研修／インターンシップ] 3日目／実施研修 4日目／実施研修 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	[実施研修／インターンシップ] 5日目／実施研修・地域交流 *地域交流については日程が前後する場合があります 6日目／実施研修・グループワーク *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	[実施研修／インターンシップ] 7日目／休 8日目／実施研修 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	[実施研修／インターンシップ] 9日目／実施研修 10日目／実施研修 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	[実施研修／インターンシップ] 11日目／実施研修 12日目／休(個人ワーク) *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	[実施研修／インターンシップ] 13日目／実施研修 14日目／実施研修終了、移動 *詳しい内容については、オリエンテーション時に報告する。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第13回	[事後研修Ⅰ] ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク →事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第14回	[事後研修Ⅱ] ～チームでのグループワーク～ ・地域課題の解決法についてのグループワーク →事後研修Ⅲの発表の準備。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	[事後研修Ⅲ] ～チーム及び個人の発表、最終レポート～ ・地域課題の解決法についての発表／チーム →プレゼンテーションと講評。 ・研修の報告とこれまでの振り返り／個人 →一人一人に最終報告をプレゼンテーションいただく。方法については、事後研修Ⅰの際に伝える。 ・最終レポートの作成と提出／個人 →内容については当日伝える。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	実習態度、実習日誌、実習報告書、報告会発表、受入先企業等からの評価などにより総合的に評価する。	

その他	20	最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える)
教科書		
なし。		
参考文献		
なし。		
履修条件・留意事項等		
「インターンシップ研修」の際に、受入先などへ迷惑をかける行為を行った場合は、途中であっても帰宅させ、受講の取り消しをする場合がある。 また、「事前研修」「インターンシップ研修(フィールドワークや地域交流など)」「事後発表会」において、チームメンバーへ迷惑をかける行為を行った場合も同様である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		地域連携プロジェクト				ナンバリング	3550
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 俊弘、小山田 健、宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を見つけている(知識・技能)」 「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」 「グローバル社会の中で、世界の人びとと共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけている(関心・意欲・態度)」 「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、地域連携の基本的な考え方を理解する。一方で、地域連携プロジェクトに参画、体験的な学習を行い、現場での知識も会得する。実際は、本学がある恵庭市と連携し、地域の活性化に貢献すべく、学生が地域の課題について取り組み、活力ある地域のまちづくりに参加していくものである。花のまち・恵庭市が推進する「ガーデンシティ」を支援する花いっぱい運動への学生の参加、市内小中学校へ留学生を派遣しての国際交流機会の提供(TAの派遣)、地域コミュニティーラジオでの学生番組の企画・制作・運営・ハロウィン・ナイトの企画・参加(商工会議所との共催)など、本学はこれまで恵庭市と様々な形で連携してきた。今度は、周辺地域との連携も視野に、隣接の千歳市との連携、千歳駅前商店街の活性化における事業企画の立案・企画・運営を通してまちづくり活動に参画することで、地元意識の醸成、愛着を持てる地域づくりを図っていく。							
到達目標							
・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等を把握した上で分析を行い、与えられたテーマに対し、課題解決の提案が行えるようになる。 ・地域の課題を自らで考え(問いを考える)、その解決の提案が行えるようになる。 ・他者(他学生、地域の皆様、外部の関係者様等)を理解し協働しながら、コミュニケーション能力を高めていく。 ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。 ・これまでの科目で習得してきた知識などを、実践の場で使用できるようになる。 ・研修する地域の現状と課題について討議できるようにする。							
授業の方法							
講義+「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の形式で行っていく。 *コロナ禍であるため、日々の状況を見ながら、座学を中心とした構成へ変更する場合も有る。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする通商交渉、エネルギー政策や貿易保険といった政策分野において担当した教員や、民間企業等で観光まちづくりに20年以上関わってきたものが担当する。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、ゲーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	[オリエンテーション] ・科目内容について	恵庭駅前商店街と千歳駅前商店街について調べておくこと(90分)	フィールドワークを行い、恵庭駅前商店街の課題を見つけ出すこと(90分)
担当教員			
第2回	[プロジェクト演習 I] アイスブレイク、チームビルディング、 演習課題①(個人ワーク、グループワーク)	チームビルディングを円滑に進めるために重要なことを調べ、400字以内にまとめておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)
担当教員			
第3回	[プロジェクト演習 I / AL(アクティブラーニング)型演習] アイスブレイク、チームビルディング 演習課題②(個人ワーク、グループワーク)	与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと
担当教員			
第4回	[プロジェクト演習 I / AL型演習] アイスブレイク、チームビルディング 演習課題③(個人ワーク、グループワーク)	与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと(90分)	本日、グループワーク行った内容を整理し、復習しておくこと。また、与えられた課題(またはチームでの課題)について考えておくこと
担当教員			

第5回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習 (Project Based Learning)] 個人ワーク、グループワーク(チームと役割の決定) *与えられたテーマに対して取り組む	千歳駅前商店街について、インターネットやフィールドワークなどを行い、どのような特色があるのかを調べておくこと(90分) *準備課題については、変更の場合もあります	本日グループで話した内容をまとめ、整理しておくこと。また、グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員			
第6回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型演習] グループワーク(フィールドワーク)	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	グループで話した内容をまとめ、整理しておくこと。また、グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員			
第7回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型] グループワーク(プレゼンテーション準備)	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員			
第8回	[プロジェクト演習Ⅱ／PBL型] プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	本日の振り返りを、各自で整理しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習 (Project Based Learning)] 個人ワーク、グループワーク(チームと役割の決定) *グループで問いを探し、その課題解決に向けて取り組む(内容は、変更になる場合もあります)	恵庭駅前と千歳駅前を比較し、それぞれの強み・弱みを分析しておくこと(90分) *内容は変更する場合もあります	本日グループで話した内容をまとめ、整理しておくこと。また、グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員			
第10回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習] グループワーク(フィールドワーク)	グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)	本日グループで話した内容をまとめ、整理しておくこと。また、グループで当たられた役割を行っておくこと(90分)
担当教員			

第11回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習] グループワーク(フィールドワーク)	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日グループで話した内容をま とめ、整理しておくこと。また、グ ループで当たられた役割を行っ ておくこと(90分)
担当教員			
第12回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型演習] グループワーク(フィールドワーク)	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日グループで話した内容をま とめ、整理しておくこと。また、グ ループで当たられた役割を行っ ておくこと(90分)
担当教員			
第13回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型] グループワーク(プレゼンテーション準備)	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)
担当教員			
第14回	[プロジェクト演習Ⅲ／PBL型] プレゼンテーション・振り返り講義	グループで当たられた役割を行 っておくこと(90分)	本日の振り返りを、各自で整理 しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	[最終レポートの作成] これまでの授業を踏まえた最終レポートを行っていただきま す。 内容については、当日発表します。	これまで取り組んできたことを整 理しておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習し まとめること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の他者評価(グループメンバーや教員、学外権威者など)や各種レポート・プ レゼンテーションなどから、総合的に評価を行っていく 最終レポート(レポートのテーマについては、当日伝える)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
グループでの活動を主体とした学外学修のため、これまでの各科目で欠席が多い学生は、面談等を行います。また、外部関係者などへ迷惑をかける行為を行った場合(チーム活動の無断欠席なども含む)は、履修を中止させ、D判定とする場合もありますので、予めご了承ください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の社会と文化(多文化共生)				ナンバリング	2540
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健						
授業の位置づけ							
世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての専門知識を身につける。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。世界各地域の活性化につながるための異文化コミュニケーション能力を身につける。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につける。							
授業の概要							
この授業は、北海道の歴史を再認識し、アイヌや外国人移住者も含めた多様な人々が安心して暮らせる地域社会の実現には何が必要か、これからの多文化共生社会のありかたを考えていく。ここでいう多文化共生とは、言語や民族、肌の色、背が高いか低い、左利きか、右利きか、男か女か、障がいの有無、宗教、出身、学歴、収入、家族形態、年齢など、皆異なっていることを優劣の価値観や偏見としてみるのではなく、個性としてとらえていく。授業では、ウポボイ(民族共生象徴空間)や北海道の歴史博物館の見学も行う。そこから、地域社会がみなで持続的に共生していくための意識化をはかる。							
到達目標							
1.共生社会とは何かを述べることができるようになる。 2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。 3.前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を、これまで以上に向上させる。 4.これからの多文化共生のありかたについて述べることができるようになる。 (2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます)							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グループクラスルームなどでの振り返りなどを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる。	共生社会とは何かを調べまとめること(90分)	北海道と本州の時代区分について調べ整理しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	北海道の歴史Ⅰ →北海道の歴史を把握し、他地域との違いや、独自の資源や価値を理解する。 →問いに対しての「個人ワーク」と「グループワーク」を行っていただく。	北海道の旧石器時代、縄文時代について、掘り下げて調べまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員			
第3回	北海道の歴史Ⅱ →アイヌ語地名の場所を理解する。 →問いに対しての「個人ワーク」と「グループワーク」を行う。	北海道の各市町村(大学のある恵庭及び近郊と地元*北海道の場合)の地名の由来を調べてまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員			
第4回	北海道の歴史Ⅲ →アイヌ文化や歴史の基礎知識を理解する。アイヌ文化を体験し、生活文化に触れるための関連施設について把握する。 →問いに対しての「個人ワーク」と「グループワーク」を行う。	アイヌの文化と歴史について調べまとめること(90分)	これまでの講義を振り返り、博物館見学において、「個人」で調べおきたい内容を最低3つ考え、まとめること(90分)
担当教員			

第5回	北海道歴史博物館(予定)の見学Ⅰ →11月(予定)／第3ターム ・個人で調べたい情報について考える ・グループで調べたい情報を共有する	博物館の施設内容について調べ、まとめておくこと。(90分)	「地域資源カード」に記入しなければならない詳細な事項を調べ書き込むこと(90分)
担当教員			
第6回	北海道歴史博物館(予定)の見学Ⅱ →11月(予定)／第3ターム ・個人で調べたい情報を探る ・グループで調べたい情報を探る	博物館の体験プログラムやイベント等について調べ、まとめておくこと。(90分)	見学後、「グループ」で調べた内容のメモや資料を、個々人で整理しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	北海道歴史博物館(予定)の見学Ⅲ →11月(予定)／第3ターム ・地域資源カード作成(メモを取りながら行動する)	博物館ができるまでの経緯を調べまとめておくこと。(90分)	「地域資源カード」に記入しなければならない詳細な事項を調べ書き込むこと(90分)
担当教員			
第8回	分析と把握Ⅰ／グループミーティング 先住民族博物館「ウポポイ」について ・地域資源カードの作成 (情報の数と質を高めていく) ・地域資源カードを使った情報の把握 (博物館の見学から、得られた情報についてまとめていく)	ウポポイ(民族共生象徴空間)の近隣にあるモノを調べまとめておくこと(90分)	見学後、「個人」で調べた最低3つの内容のメモや資料をまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	分析と把握Ⅱ／グループ発表及びレポート作成 ・得られた情報についての発表 ・レポート作成(テーマは当日発表)	プレゼンテーションの資料や発表までの準備をしておくこと(90分)	これまでの講義を振り返り、博物館見学において、「個人」で調べておきたい内容を最低3つ考え、まとめておくこと(90分)
担当教員			
第10回	ウポポイ(民族共生象徴空間)の見学Ⅰ →12(予定)／第4ターム ・アイヌ文化を体験し、生活文化に触れる ・個人で調べたい情報について考える ・グループで調べたい情報を共有する	ウポポイ(民族共生象徴空間)の施設内容について調べ、まとめておくこと。(90分)	見学後、「個人」で調べた最低3つの内容のメモや資料をまとめておくこと(90分)
担当教員			

第11回	ウポポイ(民族共生象徴空間)の見学Ⅱ →12月(予定)／第4ターム ・個人で調べたい情報を探る ・グループで調べたい情報を探る	ウポポイ(民族共生象徴空間)の体験プログラムやイベント等]について調べ、まとめておくこと。(90分)	見学後、「グループ」で調べた内容のメモや資料を、個々人で整理しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	ウポポイ(民族共生象徴空間)の見学Ⅲ →12月(予定)／第4ターム ・地域資源カード作成(メモを取りながら行動する)	ウポポイ(民族共生象徴空間)ができるまでの経緯を調べまとめておくこと。(90分)	見学後、個人で「地域資源カード」の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第13回	分析と把握Ⅲ／グループミーティング 北海道博物館(予定)について ・地域資源カードの作成(情報の数と質を高めていく) ・地域資源カードを使った情報の把握(博物館の見学から、得られた情報についてまとめていく)	博物館の近隣にあるモノを調べまとめておくこと(90分)	「地域資源カード」に記入しなければならない詳細な事項を調べ書き込むこと(90分)
担当教員			
第14回	分析と把握Ⅳ／グループ発表及びレポート作成 ・得られた情報についての発表 ・レポート作成(テーマは当日発表)	プレゼンテーションの資料や発表までの準備をしておくこと(90分)	各チームが発表された内容を振り返りまとめておくこと(90分)
担当教員			
第15回	グローバリゼーションと多文化共生 →多文化共生について理解する。 これまでの振り返りと最終レポート →最終レポート提出(テーマは当日発表)	グローバリゼーションについて、400字以内にまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	準備学習の状況、授業態度、授業意欲、グループディスカッション、各授業内でのレポート、プレゼンテーション、事後学習の状況 最終レポート(これまでの授業の理解度を確認。レポートのテーマについては、最終授業日に伝える)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
授業ごとに紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
北海道博物館(5－7)と、ウポポイ＊民族共生象徴空間(10－12)の見学は、各日付(日程・検討中)の1講～5講(1講と5講はバス移動)まで行う。よって、見学日の授業については、科目担当の教員の同意を得て出席を行うこと。また、その科目を欠席した場合の代替は、各先生方にレポート等に対応をいただくこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing II				ナンバリング	2602
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技能) 世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけているに関連している科目である。							
授業の概要							
The purpose of this class is to build on the knowledge of paragraph writing learned in Academic English Writing I and to master the basics of essay writing in English.							
到達目標							
In this class, students will learn how to compose basic essays, including introductory paragraphs, body paragraphs, and concluding paragraphs, and will be able to write effective essays in a variety of genres, and finally to evaluate each other's paragraphs (Peer Review).							
授業の方法							
This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.							
ICT活用							
This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).							
実務経験のある教員の教育内容							

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Orientation - Learn about course: + overview + goals - Learn about assessments: + peer-assessment tasks + in-class writing tasks + in-class tests - Learn about fluency writing - Learn about LMS	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, generate questions.	Reflect on the orientation discussion and review notes.
担当教員			
第2回	Academic Paragraphs 1 (Chapter 1) - Analyze the model: + academic paragraph - Analyze vocabulary: + word families - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第3回	Academic Paragraphs 2 (Chapter 1) + Analyze page formatting practices + Analyze capitalization practices - Practice writing process: + step 3: write first draft + step 4: revise & edit first draft	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第4回	Academic Paragraphs 3 (Chapter 1) - Analyze sentence Structure + simple sentences + phrases + subject-verb agreement + fragments - Analyze vocabulary: + nouns and verbs - Peer Assessment #1 + comment on peer's revised draft	Check the LMS, read Chapter 1 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第5回	Basic Paragraph Structure 1 (Chapter 3) - Analyze the model: + basic paragraph - Analyze vocabulary: + adjectives - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第6回	Basic Paragraph Structure 2 (Chapter 3) - Analyze organization: + topic sentence + supporting sentences – main points + supporting details – examples + concluding sentence - Analyze sentence structure: + the model + adjectives and adverbs - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第7回	Basic Paragraph Structure 3 (Chapter 3) - Analyzing vocabulary: + adjectives - Peer Assessment #2 + comment on peer's revised draft - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 3 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Review of Paragraph Organization (Chapter 1/ Chapter 3) - Review work from classes 2-7 - Take In-class Writing Test #1	Check the LMS, re-read Chapters 1 & 3, re-read exercises and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第9回	Logical Division of Ideas 1 (Chapter 4) - Analyze the model: + unified, coherent paragraph - Analyze vocabulary: + synonyms - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第10回	Logical Division of Ideas 2 (Chapter 4) - Analyze organization: + logical division of ideas + unity in supporting sentences + coherence in supporting sentences - Analyze sentence structure: + run-ons and comma splices + correcting run-ons and comma splices + finding run-ons and comma splices - Practice writing process:	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			

第11回	Logical Division of Ideas 3 (Chapter 4) - Analyze vocabulary: + synonyms and near-synonyms - Peer Assessment #3 + comment on peer's revised draft - Practice writing process	Check the LMS, read Chapter 4 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第12回	Essay Organization 1 (Chapter 9) - Analyze model: + essay - Analyze vocabulary: + formal and informal words - Practice writing process: + step 1: pre-write + step 2: organize	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第13回	Essay Organization 2 (Chapter 9) - Analyze organization: + introduction paragraphs + body paragraphs + concluding paragraphs + transitions between paragraphs + essay outlining - Practice writing process: + step 3: write first draft + step 4: revise & edit first draft	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第14回	Essay Organization 3 (Chapter 9) - Analyzing vocabulary: + formal and informal vocabulary - Peer assessment #4 + comment on peer's revised draft - Practice writing process: + step 5: write a new draft >> In-class task #2	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review of Essay Organization (Chapter 4 / Chapter 9) - Review work from classes 9-14 - Take In-class Writing Test #2	Check the LMS, read Chapter 9 and take notes. (90 minutes)	Reflect on exercises and practice writing fluency. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%; writing and vocabulary building assessments for the first half of the course: 40% writing and vocabulary building assessments for the second half of the course: 40%	

その他	0	
教科書		
Longman Academic Writing Series 3 (4th Edition), Alice Oshima & Anne Hogue		
参考文献		
none		
履修条件・留意事項等		
none		
備考欄		
none		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English II				ナンバリング	3607
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	沢谷 佑輔						
授業の位置づけ							
この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連し、特に「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられ、国際教養英語のまとめの講義となる。							
授業の概要							
この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられる。授業では、Integrated Academic English I で学習した内容をさらに発展させ、英語で行われる講義を聴き取り、そこで得た情報を基に自分の意見を述べるレポートを作成したり、他の学生と意見を口頭で交換できる能力を身に付けることを最終目標とする。学生たちは、授業前にChapterのテーマに関わる文献や記事を探して読み、日本語でテーマに関わる背景知識を得てから参加することが求められる。							
到達目標							
・英語で行われる講義を理解するために必要な情報を事前に自分に合った形で情報を事前に探すことができる。 ・様々なトピックの英語で行われる講義において、必要なノートテイキングのスキルを身につけ、講義の理解に結び付けることができる。 ・講義で得た知識をもとに、自分の意見を書いたり、議論を行うことができる。							
授業の方法							
基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。							
ICT活用							
様々なWebアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・講義理解リスニングテスト(Pre-test)を行う。	Integrated Academic English I の学習を振り返り、講義理解リスニングテストに備える(90分)。	テストの出来を基に、自分に不足している部分を分析する。
担当教員			
第2回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】① 1. Getting Started (pp. 86-87) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・雑音がある環境下でのリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (pp. 86-87) ・トピックに関わる語彙の学習とディスカッションを行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第3回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】② 2. Real-Life Voices (pp. 90-93) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第4回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.96-101) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、Outlineの形でノートをまとめ、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			

第5回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】④ ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、Chartの形でノートをまとめ、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第6回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】① 1. Getting Started (pp. 102-104) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・天気予報のリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (p.105) ・天気現象に関わる語彙を学び、それらの現象の体験談について学生同士で議論する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第7回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】② 2. Real-Life Voices (pp. 106-107) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。 ・トピックについての“humor”を理解する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第8回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.111-113) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第9回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.114-116) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第10回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】① 1. Getting Started (pp. 125-127) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・昆虫、動物、植物に関わる必要な情報を聴き取る練習を行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			

第11回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】② 2. Real-Life Voices (pp. 128-132) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第12回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.135-138) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第13回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.139-141) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う(90分)。
担当教員			
第14回	Oral Presentation ・Oral presentationを行う。	Oral presentationの準備を行う(90分)。	他の学生のOral presentationと自分のものを比較し、足りない部分を分析する(90分)。
担当教員			
第15回	講義理解リスニングテスト(Post-test)	14週目までの授業の復習を行い、講義理解テストの準備を行う(90分)。	授業を通して、どれほど力がついた部分と足りない部分を分析し、今後の英語学習の方法を考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題40% 単語テスト20% 講義理解リスニングテスト:20% Oral presentation: 20%	

その他	0	特になし。
教科書		
Yoneko Kanaoka Academic Encounters Level 1 Student's Book Listening and Speaking, 2nd edition Cambridge		
参考文献		
講義内で紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業には真剣に取り組む、課題の締め切りは厳守すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		経済と社会				ナンバリング	1722
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	平岡 祥孝						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。この講義は、その後に学習する国際政治経済分野諸科目の基礎となる科目である。							
</							

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時に課題を提示し、授業終了前に課題に関する意見交換を行う予定である。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション（授業概要と授業の進め方、学習方法、事前学習・事後学習、評価方法、注意事項など）	高校時代に学習した経済分野について確認する(90分)。	身近な消費生活において興味・関心を持った事項について整理しておく(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第2回	「経済学とは何か」	経済学の視点から考察する事例事例について、その理由と共に複数準備する(90分)。	経済学の学び方を確認する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第3回	「経済学の歴史をたどる」	高校時代に学習した経済思想・学説分野について確認する(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第4回	「価格と市場機構」	市場に関して知るところをまとめておく(90分)	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		

第5回	「消費と貯蓄」	家計における消費と貯蓄の状況についてまとめる(90分)	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第6回	「需要曲線」	高校時代に学習した需要曲線と供給曲線について確認する(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第7回	「需要の価格弾力性」	普段購入する食料品の中で価格変化に対応して、商品の購入量が増加したり、減少したりする事例をまとめておく(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第8回	「需要の所得弾力性」「需要の交差弾力性」	普段購入する食料品の中で代替品との関連で、商品の購入量が増加したり、減少したりする事例をまとめておく(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第9回	「消費者余剰」	支出予算額よりも実際の購入金額が安い場合に、消費者の意識と行動について、各自まとめておく(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第10回	「無差別曲線分析」	飲食メニューの中から好みの順序付けの事例について、各自幾つかまとめる(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		

第11回	「食料消費の経済分析」	家計支出に占める飲食費がどの程度であるか、各自の実態について確認しておく。(90分)	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第12回	「経済数学の基礎」	高校時代に学習した微分・積分について確認する(90分)。	講義内容を確認して、重要事項を整理する(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第13回	問題演習	事前配布した演習問題に取り組む(90分)。	事前配布した演習問題に取り組む(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第14回	問題演習	事前配布した演習問題に取り組む(90分)。	演習問題を見直す(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
第15回	まとめとテスト	授業内容を再整理するとともに、配布資料も再確認しておく(90分)。	演習問題を見直す(90分)。
担当教員	平岡 祥孝		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	出席状況、受講態度、ノート作成状況、Q&A	

その他	60	最終授業時間内に作成する課題レポート
教科書		
使用しない。		
参考文献		
ミクロ経済学の入門の入門／坂井豊貴／岩波新書2017年、絵でわかるミクロ経済学／茂木喜久雄／講談社、2018年。 その他、必要に応じて授業中に紹介していく。		
履修条件・留意事項等		
全出席が望ましい。正当な理由なき遅刻・欠席は減点する。なお合理的な事情がある場合には配慮する。授業マナーを順守すること。授業中のスマートフォン操作、飲食、私語、授業に無関係な作業(「内職」)に対しては厳しく対応する。選択科目ゆえに、経済学に興味・関心があるか否かが履修動機として大切である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際関係論				ナンバリング	1710
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
この授業は「問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を下せるようにするための科目である。グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（関心・意欲・態度）」や「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。（知識・技能）」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、世界の理解と分析の基礎となる国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとしている。まず、国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を安全保障、経済、国際協力、資本主義などのテーマで具体的に検討していく。							
到達目標							
国際関係論の世界認識では、アクター（行為主体）間の異なる問題領域での多様な関係性の変化への理解が求められる。この授業では、学生が、安全保障、外交、開発、環境などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得することを到達目標とする。							
授業の方法							
印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。							
ICT活用							
関連する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。							
実務経験のある教員の教育内容							

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・導入～「世界とは何か、世界をどう見るのか？」 国際関係論の学問的使命とは、「世界」とは何か、それをどのように認識する(べきな)のか、という認識の枠組みを提供することである。グローバル化のプロセスを、どのように読み解けばいいのか、国際関係論の「理論」はその手がかりを提供する。各学生は自分の関心のある分野や問題についてプレゼンする。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	<第1部 理論> ・理想主義 Idealism～戦間期と国際連盟の挫折 第1次世界大戦の反省から、世界平和は人類の宿願となり、国際連盟のような制度、規範などが整備されたが、人類は再び戦争へと突き進む。E・H・カーなど戦間期の思想をてがかりに、国際制度主義や自由主義などに影響した、理想主義の射程と限界を具体的に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・現実主義 Realism～第2次世界大戦の痛みと記憶 国際関係論の古典的主要理論の1つで、現在も米国など大国の外交の思考様式に隠然とした影響力を持つ現実主義。Realismの射程は、主に米国で展開する。パワーの概念という国際関係論にとって主要な命題の1つをめぐって、モーゲンソーらの論考を中心に検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	・自由主義 Liberalism～多元化・経済化する世界 戦後世界が安定し、国際貿易が増大する中で、多国籍企業や国際機関などのアクターの台頭と、経済・市場分野の重要性の「政治化」は、現実主義より経済化した認識を必要とする。相互依存やトランスナショナリズムなど、自由主義の系譜をコヘインらの認識から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	・トランスナショナルイズム Transnationalism～越境する現代 トランスナショナルイズムは、越境する政治・経済・文化・市民・運動などを見るグローバル化の「見立て」として中心的な認識枠組みを提供する。現象と理論の両方からグローバル化を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・グローバリズム Globalism～「下から見た世界」の構造 現実主義と自由主義の視点が、力を持った「上からの視座」であるとする、マルクス主義国際関係理論は、開発や経済的支配について「下からの視座」である南北格差の問題意識を強調する。従属論、帝国主義論などのグローバリズムの理論群を、市場と資本主義の観点から整理する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	・批判理論とその周辺 Critical Theory グローバリズムの系譜による分析が「経済主義」であるのに対して、批判理論やポスト構造主義以降の議論、特に社会構成主義やネオ・グラムシ国際関係論は、人々が持つ「概念」「常識」などの力が支配、およびその支配への申し立てに果たす役割を強調する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第2部 問題領域～現実の中で理論を考える＞ ・安全保障と外交 Security and Diplomacy 現実主義から見る安全保障は軍事のことであり、自由主義の射程はそこに経済を加える。いずれも国家の安全保障を重視するのに対し、批判的な諸理論は個人や「人間の安全保障」を唱える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・環境問題 Environmental Issue 環境問題や環境汚染には国境がない。二酸化炭素の排出による、オゾン層の破壊や地球温暖化や北極海の氷の現象は、地球規模の気象メカニズムを通じて全世界に深刻な打撃を与える。知的共同体やNGO・国際機関の役割など環境問題の多面性を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	・IT技術とコミュニケーション革命 IT Revolution of Communication グローバル化の特徴として情報技術の飛躍的進歩による、世界のシンクロ化が挙げられる。米国の軍事技術から出発したインターネットは、国際NGOのようにこれまで国境で区切られていた市民とその運動をつなぎ、同時に、テロリストの広がりも助けていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	・グローバル市場 Global Market 情報化によって最も恩恵を受けた領域は経済、特に金融を中心としたグローバルな市場である。国家や社会は相当程度市場化され、グローバル市場を経由して瞬時に連結する。現代のガバナンスのメカニズムにおいて、台頭する経済権力や権威に着目する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・南北格差と開発 Division and Development 開発援助の分野ほど、多様なアクターが複雑に絡み合う問題領域もないかもしれない。先進国・途上国・国連・NGO・多国籍企業…異なる利害と立場が交錯する開発の領域を事例に、現代の国際関係のダイナミズムを検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	・文化の力 Power of Cultures とかく軍事と経済のいわゆるハードな問題に偏りがちな国際関係論にあって、文化の問題は比較的新しく魅力的で、同時に悩ましい領域である。アイデンティティーに深く関わりを持つ、言語、民族、宗教などのネットワークは、理論が考えるよりも大きな世界変化の動因となっていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたの国際関係論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 国際関係論において、どの理論が一番大事であるとか、どの問題領域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせて、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「わたしたちの国際関係論と世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際関係論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%	

その他	0	なし
教科書		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
本授業は1年次の必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際機構と国際法				ナンバリング	3714
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、グローバル化する世界で重要性を増す、国連などの国際機構と、国家の枠組みを超える共通のルールである国際法について学ぶことを目的とする。20世紀後半の安定した世界の中で、世界政治は国家間の競争や衝突だけでなく、人類に共通する組織やルールでの運営を模索してきた。日本の政治経済や社会とも深く関わる国際機構と国際法について、その理論と事例から総合的な把握を目指す。							
到達目標							
国際法というカバーする対象の広い課題の全ての通り一遍の知識を得ることが到達目標ではなく、学生自身が、自らが抱いた疑問を調査研究する設問に焦点を合わせた形で設定し、実際にどのような書籍を参照し、理論を理解することで回答に辿り着けるのかを考え、自分なりの見解をまとめられるようになることを到達目標とする。学生自身の問題設定のあり方、参照するべき書籍、論文等はもちろん担当教員が紹介する。その中から学生が自ら主体的に取捨選択することを学ぶことが到達目標である。							
授業の方法							
3年次配当科目であることから、自ら主体的に学ぶ姿勢・手法を学ぶと言う観点から、アクティブ・ラーニングの手法を大胆に取り入れる。概説する教科書を指定した上で、各自がそれをまとめ、共通の理論的基盤を築いた上で、受講生それぞれの疑問に応じた参考文献を教員の指導のものに検索し、自らの考えをまとめる手法をとる。教員は適宜PowerPointのスライドを用いて基本知識を補う。							
ICT活用							
必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、環境条約の起草交渉に従事した経験や、日本の政策形成過程に参加した経験と国際機関での他国との外交交渉実務を踏まえたケースを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. Introduction (1) 本講義の位置付けと進め方 (2) 国際法の特長 (3) 理論と実践 (4) 国際法と判例	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2. 国際法のはたらき(1) (1) 国際社会と法 ① 国際法の歴史 ② 国際法のはたらき	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	3. 国際法のはたらき(2) (2) 国家とその他の国際法主体 ① 国家 ② 主権 ③ 非国家主体	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	4. 国際法のはたらき(3) (3) 国際法のありかた ① 国際法のありかた ② 条約 ③ 不文国際法	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	5. 国際法のはたらき(4) (4) 国際違法行為への対応	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	6. 共存と協力の国際法(1) (1) 領域と国籍 ① 領域 ② 国民国家と国籍	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	7. 共存と協力の国際法(2) (2) 人権 ① 人権の歴史 ② 国際非差別法と少数者保護の展開 ③ 多様な世界の人権	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	8. 共存と協力の国際法(3) (3) 経済の国際法 ① 経済の歴史と国際法 ② 国際通商と国際法 ③ 投資・通貨・金融と国際法 ④ 国際経済システムが抱える問題	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	9. 共存と協力の国際法(4) (4) 環境の国際法 ① 環境の保護 ② 地球文明の未来	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	10. 不条理の世界の法(1) (1) 国際紛争と国際法 ① 国際紛争と国際法 ② 国際仲裁と国際裁判 ③ 国家間の紛争解決と国際法	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	11. 不条理の世界の法(2) (2)戦争と平和 ① 武力の規制と集団安全保障 ② 武力行使の国際法的正当化の諸形態	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	12. 不条理の世界の法(3) (3)国連体制の意義と限界 (4)非対称的脅威と国際法	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	13. 人道的介入 (1)主権国家による自国民迫害の歴史 (2)ルワンダ内戦 (3)ユーゴスラビア紛争 (4)人道的介入に正義はあるか	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	14. ウクライナ戦争と国際法 (1)ウクライナの歴史 (2)プーチンの戦争 (3)国連の機能 (4)プーチンの戦争犯罪	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	15. 21世紀の国際法 (1)国連機関 (2)国際裁判 (3)国際法の履行確保	指定された文献を読んでくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行なわない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性30%、小課題の提出状況30%、期末課題40%	

その他	0	
教科書		
大沼保昭『国際法』ちくま新書 2018 最上俊樹『人道的介入』岩波新書2001		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際経済学				ナンバリング	2722
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)							
授業の概要							
この授業は、国と国との経済関係によって生じる問題について考察する学問である。この授業では、グローバル化が進む現代の経済情勢を理解するために必要な国際経済学の知識を身につけることを目標とする。具体的には、マクロ経済学の基礎を学習した後に、戦後の自由貿易、自由経済のいわゆるブレトンウッズ体制における経済の変遷と経済統合EC及びEU、FTA(自由貿易協定)、TPP(環太平洋連携協定)等の協定の意義について考察する。							
到達目標							
自ら関心を持った課題につき、統計資料等を用い問題の構造を分析し、的確な政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる能力を養う。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行う。適宜Google Classroomで補充する。							
ICT活用							
インターネット上の資料を適宜参照する他、Google Classroomを通じた双方向コミュニケーションで補充する。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、国際経済及び国内における産業政策の形成過程と国際的な政策調整に関わった実務経験を踏まえた教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に2回程度の小課題を課し、提出物につき講評するとともに期末課題への評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.Introduction:経済学の中における国際経済学	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(20分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(20分)
担当教員			
第2回	2. 国際経済と統計 (1) 抽象と具体 (2) ミクロとマクロ (3) 国民経済計算 (4) 国際経済と統計データ	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	3. マクロ経済学の基本モデル (1) Supply SideとDemand Side (2) 閉鎖経済の短期モデル	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第4回	3. マクロ経済学の基本モデル (3) 閉鎖経済の中期モデル	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第5回	3. マクロ経済学の基本モデル (4) 開放経済モデル	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3. マクロ経済学の基本モデル (5) 経済成長	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第7回	3. マクロ経済学の基本モデル (6) 安定化政策	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	4. 国際貿易 (1) 国際貿易の基礎	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	4. 国際貿易 (2) 比較優位と国際貿易	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第10回	4. 国際貿易 (3) 生産要素の変化と国際貿易	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第11回	5. 貿易政策 (1) 輸入制限と補助金 (2) 輸出税と保税地域	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	5. 貿易政策 (3) 不完全競争 (4) 規模の経済性と産業内貿易	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第13回	5. 貿易政策 (5) 戦略的通商政策と貿易摩擦	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	6. 技術移転と国際貿易	指定された文献を読んでくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	7. 国際貿易ルール	指定された文献を読んでくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行なわない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と講義参加の積極性30%、小課題提出状況30%、期末課題40%	

その他	0	
教科書		
現時点ではとくに指定しない。		
参考文献		
若杉隆平『現代経済学入門 国際経済学』岩波書店 2009 斎藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『Liberal Arts Selection マクロ経済学』有斐閣 2016		
履修条件・留意事項等		
履修条件とはしないが、ミクロ経済学で扱う価格理論等は経済政策の議論の基礎であるために理解しておくことが必要であるため、「経済と社会」を履修しておくことを強く勧める。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会学				ナンバリング	2724
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳、翁 康健						
授業の位置づけ							
This class enables students to co-exist and co-work with people of the world in the globalising society.							
授業の概要							
This class studies how sociology can understand various issues taking place where various social groups and organisations transform which individualizes the risk due to the globalising contemporary society. This lecture approaches the major characteristics of increasing local, national and global interdependence through learning perspectives and methodologies for understanding the various aspects of international society. This aims to elaborate social imagination which is required to live in the age of globalisation.							
到達目標							
Upon completion of the course, students will be able to demonstrate a tangible understanding of the poetic devices used in the texts, issues related to teaching the English language, syntax as a science, and cultural and global affairs. Moreover they will be expected to show an appreciation of the methodology required to analyze such texts and will do so through the submission of written or presentation based assessment items.							
授業の方法							
This is a seminar class where students will watch DVD and read articles from handouts. Students will actively discuss and make presentations when asked. Teacher will give feedback through explanation and comments where necessary.							
ICT活用							
Relating websites and movie resources on the web.							
実務経験のある教員の教育内容							

None			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, writing exercises, grammar and pronunciation.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	I. Introduction to the course including outlines of the five academic strands from which students may choose to focus. Each strand will include: the assessment procedure, the weekly schedule, the key elements to be studied, the academic context, and the learning objectives. Review the class activity. II. Evaluation of Summer research and Final Submission progress report.	Think about the topic of research and the points you want to study in depth. (90 minutes)	Prepare a written submission of topic and main points of research. (90 minutes)
担当教員			
第2回	I. Student`s written submission of their strand choice and learning objectives will be analyzed and they will make a program of study. II. Defining Final Submission key elements of research. Prepare according to the instruction for the next class.	Make a program of study for the research topic. (90 minutes)	Make needed changes based on teachers comments. (90 minutes)
担当教員			
第3回	I. Chosen Texts in regional or global context (Part 1) Including an analysis of the social and political factors pertaining to each region. II. Defining analysis methods to be used in Final Submission. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Read the handouts of Chosen Text. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第4回	I. Chosen Texts in regional or global context (Part 2). Including an analysis of comparative culture and international relation. II. Final Submission progress report. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			

第5回	I. Cognition and Language Acquisition. (Part 1) Discussion on Syntax as a Cognitive science and Parts of Speech. Includes family language policies on children's bilingual acquisition. II. Final Submission analysis and consultation. Review the class activity. Prepare according to the	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第6回	I. Cognition and Language Acquisition (part 2) Discussion on English education in Japan and abroad, and importance of teaching prosody in English education in Japan. II. Final Submission analysis and consultation. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第7回	I. History and Culture of English Speaking Countries (Part 1). Discussion on the history of the United States from the Pre-Columbian era II. Final Submission analysis and consultation. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第8回	I. History and Culture of English Speaking Countries (Part 2) Discussion on national park management. II. Final Submission Progress Report. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第9回	I. Generative Grammar (Part 1) Includes introduction and discussion of the Binding theory and the X-bar theory II. Final Submission analysis and consultation. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第10回	I. Generative Grammar (Part 2) Introduction of verb movement, passives, and movement in wh-questions II. Final Submission analysis and consultation. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			

第11回	I. Rhetorical Devices and Poetics. (Part 1) Includes an analysis of the various rhetorical devices used in the chosen texts and will act as introduction to culturally specific factors in each text such as comedy, satire, metaphor, allegory, irony and subtext II. Final Submission progress report. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第12回	I. Rhetorical Devices and Poetics (Part2) Comedy, satire, metaphor. II.Final Submission proofreading, editing, and/or performance critique 1. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第13回	I.Rhetorical Devices and Poetics (Part 3) Allegory, irony and subtext. II. II.Final Submission proofreading, editing, and/or performance critique 2. Review the class activity. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第14回	I. Final Submission summer research plan evaluation. II. Final Submission proofreading and editing. Prepare according to the instruction for the next class.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Do the required preparation for the next class. (90 minutes)
担当教員			
第15回	I. Final Submission summer research plan and objectives due. II. Submission of Final Written paper and one to one analysis of the submission within the context of both the theory and the original agreed learning objectives.	Review the major points discussed in class. (90 minutes)	Review all the topics discussed in class. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	None	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Regular Submissions Written and/or Presentations 30% Final Submission 70%	

その他	0	None
教科書		
None		
参考文献		
To be noticed.		
履修条件・留意事項等		
None		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	1740
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治と経済についての基本的な知識を修得するための科目である。具体的には、日本の現代政治および現代経済分析の基礎的な理論、観点を修得し、現代日本政治と経済の特徴について、1945年の敗戦から現在に至る事実の時系列的変化を正確に踏まえ、理論的、実証的に考察する力を養う。							
到達目標							
学生が、自ら関心を持つ政治経済分野を特定し、その分析に必要な理論的枠組みはどのようなものかを理解し、必要な情報を収集する能力を養う。分析するにはどの分野の知識が必要であり、どのような情報をどのような形で収集すべきであり取舍選択すべきか(新聞、テレビ、ネット等)を判断し、解決策を主体的に提示できることを到達目標とする。							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義形式で行う。受講者の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を目指す。							
ICT活用							
Google Classroomにより授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うと共に受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。							
実務経験のある教員の教育内容							

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする通商交渉、エネルギー政策や貿易保険といった政策分野において、外交交渉、法案作成、国会審議、予算編成の実務を経験しているだけでなく、現実の政治や選挙といった実戦における経験も踏まえて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義のアウトライン 参考文献リストの提示と受講生の関心の提示 日本の大学形成史における政治学の位置づけ	シラバスを読み、自らの関心を 明確にしておくこと(20分)	講義内容をノート等で復習しておくこと(20分)
担当教員			
第2回	「政治とは何か」1. 権力	指定された文献を読んでおくこと(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第3回	「政治とは何か」2 「政治」の定義	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第4回	「政治とは何か」3 国家	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			

第5回	「政治とは何か」4 権力の正体	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第6回	「政治とは何か」5 支配の正統性	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第7回	政府 1 立憲主義と権力分立	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第8回	政府 2 政府の役割	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第9回	政府 3 天皇制と国家統合	指定された文献を読んでおくこと(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社 2010 藤田省三「天皇制国家の支配原理 序章」市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第10回	政府 4 官僚制とその民主的統制	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			

第11回	政治過程 フェミニズムと日本政治	指定された文献を読んでおくこと(90分) 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第12回	議会 1 民主主義の制度	指定された文献を読んでおくこと(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第13回	議会 2 議院内閣制と大統領制	指定された文献を読んでおくこと(90分) 吉田徹『「野党」論』ちくま新書 2016	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第14回	議会3 選挙と政党	指定された文献を読んでおくこと(90分) 山本健太郎『政界再編』中公新書 2021	講義の内容をノートで復習するとともに指定された文献の該当箇所と対照しておくこと
担当教員			
第15回	民主主義の政治	指定された文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と授業参加の積極性30% 小課題提出状況30% 期末課題40%	

その他	0	
教科書		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
参考文献		
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012 特に後者は現時点においても日本語で書かれた最高水準の内容であるが、大学生のたしなみとして、購入し手元において、本講義はもとより、日常マスコミ報道等で疑問に思う事項を検索するようになって欲しい。 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983 日本政治の「あいまいさ」に正面から切り込んだ業績は現在まで残念ながら「絶後」と言えるもの。 その他、随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
大学としての学習の出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するので、扱って欲しい課題のリクエスト等、積極的にクラス参加してほしい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アフリカ地域論				ナンバリング	2816
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉田 勉幸、吉田 勉幸						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)と関連の深い科目である。							
授業の概要							
この授業は、アフリカに関する知識を幅広く学ぶと同時に、アフリカと世界、アフリカと日本との関係性から、アフリカがわたしたちの身近な生活に関係していることを理解することを目的とする。アフリカ大陸には54もの国があり、その文化や社会は多様である。また、経済面では世界最後の成長市場と言われており、近年は日本企業もアフリカに進出している。この授業では、アフリカが抱える課題がアフリカの歴史、社会、文化、政治、経済にどのように関連しているのか、国際社会や日本はアフリカとどのような関係を築いているのかについて学ぶ。							
到達目標							
この授業では、以下に掲げる項目を目標とする。 ・アフリカの言語、政治、経済、社会、文化等の教養を身につけ、論理的に説明できる。 ・アフリカ諸国が抱える様々な基本的な課題を分析することができる。 ・アフリカにおける基本的な課題の議論に参加できる。							
授業の方法							
授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。 授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。 授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。							
ICT活用							
PC、タブレット等を使用し、スライド、動画を多く使用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業で説明した直近の内容を確認するために、授業中にミニレポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。また、アフリカの基本的な知識(地理等)を確認するため、ミニテストを実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	アフリカの魅力 ～人類発祥の地～ アフリカはかつて「暗黒大陸」と呼ばれていた。しかし、現在は世界中から注目が集まっている。アフリカとは何か？アフリカとアフリカに関わる国家及び人々を概説する。 初回では、授業計画を調整するため、出席者の意見、考えを積極的に求める。	あなたにとって「アフリカ」とは？ 自身の現在と未来におけるアフリカとの繋がりについて考え、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第2回	サブサハラアフリカの歴史とアパルトヘイト 特に南部アフリカの歴史について説明する。奴隷貿易や人種差別、紛争等、アフリカの悲劇の歴史について読み解く。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員			
第3回	アフリカの政治 植民地支配が終わり、独自に政治体制を築いていった国々は、独立後順風満帆ではない。ディアスポラや、歪な国境線に区切られた政治体制に注目し、学ぶ。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員			
第4回	アフリカの経済発展 ～援助ではなく投資を～ 近年、アフリカの経済発展が著しい。「援助」から「投資」へと流れが転換する中で、何が起きているのか？幾つか事例を挙げて説明する。 また、アフリカ人は時間にルーズと言われる。その原因を分析し、日本人の仕事観と比較して、アフリカの経済発展について考える。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員			

第5回	アフリカにおける飢餓の現実 ～国連から食料援助を受けていたジンバブエ人は本当に飢えていたのか？～ ジンバブエにおける国連からの食料援助の実態と栄養不足の現実について学ぶ。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員			
第6回	アフリカの環境問題 アフリカにおける、自然環境の変化(干ばつの増加やキリマンジャロの氷河が減る等)や自然破壊、環境汚染(ゴミ問題や土壌汚染など)を学び、様々な要因について理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第7回	アフリカの農業と食品 アフリカ北部と東部、南部の食文化を解説する。また、アフリカの農作物やユニークな食べ物について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第8回	アフリカの観光産業 アフリカの観光は、動物や自然を見るだけではない。日本ではあまり知られていないアフリカの観光(体験型や学習型等)について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第9回	アフリカの言語 アフリカには、英語やフランス語等の公用語、そして各種部族語があり、無数の言語が存在する。この授業では彼らの多言語社会に焦点を当て、学習する。 また、その中で「ショナ語」と「ンデベレ語」に注目し、そのユニークな発音を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第10回	アフリカの芸術 現在のアフリカの文化は、欧米の影響を強く受けている。この授業では、「欧米の文化」と「土着の文化」との融合であるアフリカの芸術に着目し、学習する。 なお、伝統楽器の「ムビラ」や絵画の「ティンガティンガ」等を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			

第11回	イスラム社会 アフリカ大陸にもイスラム教徒は多く住んでいる。この授業では、日本ではあまり知られていないイスラム思想に焦点を当て、イスラム社会における規律やジェンダー、独特の習慣等について考える。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第12回	アフリカと世界 昔も今もアフリカは、先進国に翻弄されている。この授業では、アフリカ諸国と北米やアジア、ヨーロッパとの関係を整理し、理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第13回	アフリカにある日本社会 実はアフリカには数多くの日系企業が進出している。アフリカで働く日本人とアフリカの日系企業、その日本人社会について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員			
第14回	北海道で見るアフリカ・日本人から見るアフリカ 北海道とアフリカの関係と、日本とアフリカ諸国との関係について再度整理し、アフリカ諸国の重要性について、再度学ぶ。 これまで学んできた内容をまとめ、アフリカについて学生達が自由に意見を述べる授業とする。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	まとめた内容を吟味し、再考する。(60分)
担当教員			
第15回	アフリカの未来 今後のアフリカの経済発展は、どこまで拡大するのか？アフリカの未来について展望し、学生達の将来との関わりについて考える。 学生達が自由に意見を述べ、議論をする。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(60分)	最終レポートの内容を見直し、最終レポートを完成させる。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	レポート課題の提出状況・ミニテスト	

その他	10	授業参加の積極性
教科書		
新聞等		
参考文献		
大学生のためのレポート・論文術/小笠原 喜康/ 講談社 その他、授業中に適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
日々、新聞を読むことが望ましい。 レポート課題における「盗用」は厳しくチェックする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		イギリス研究				ナンバリング	3824
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度) 世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)							
授業の概要							
この授業は、日本の近代化にも大きな影響を与え、EUからの離脱で注目されるイギリス。英語が誕生した国でもあり、かつて世界の半分を支配していると言われたイギリスの歴史や文化は、日本のみならず世界に大きな影響を与えている。本講義では、イギリスの社会と文化の伝統の持つ豊かさと同時に、多くの分野でいまだに世界の新しいトレンドを作り出している現代イギリスの現状について、その本質を理解することを目的とする。ヨーロッパとの関係性の理解も重要となってくる。							
到達目標							
The goal of the course is to develop students’ knowledge about Britain’s geography, history, political structure, popular culture, security issues, and the influence of particular religious beliefs through lessons that are conducted entirely in English.							
授業の方法							
Lectures, vocabulary building, discussions, and student presentations will be the main components of this class.							
ICT活用							
The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.							
実務経験のある教員の教育内容							

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to the tests will be given after the tests have been completed, graded tests will be shown to students, and feedback will be provided on student presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	This lesson will focus on an overview of some of the key aspects of the United Kingdom.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	The focus on this class will be the UK's population, including the number of people, their social and ethnic backgrounds, political affiliation, religious beliefs, and distribution.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第4回	In this lesson we will explore British cuisine. This will include a look at some of the dishes and drinks that are most associated with the UK, in addition to types of food that are currently popular.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第5回	This class will focus on the British countryside and some of the most famous scenic spots and their significance with a special focus on Stonehenge and its historical, religious, and social significance.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	This class will focus on current security issues facing the UK and the structure of the intelligence services. The second half of the lesson will focus on the influence of the British intelligence services on popular culture.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第7回	Students will make their presentations on a topic related to British culture.	Prepare for the presentation and begin preparing for the midterm test.	Reflect on the feedback provided on the presentation and prepare for the midterm test.
担当教員			
第8回	Students complete the midterm test.	Prepare for the midterm test.	Reflect on the midterm test and avenues for improvement.
担当教員			
第9回	This lesson focuses on Westminster Abbey, its history, and the historical figures associated with it.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第10回	This lesson focuses on iconic figures in the UK's popular culture.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分.	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第11回	This lesson focuses on formative moments for the UK in the twentieth and twenty first centuries. These include World War 2, the Falklands War, the conflict in Afghanistan, Brexit, and COVID.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分.	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	This class looks at the UK tourist industry with a special focus on the Lake District.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分.	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第13回	This class continues the focus on the UK tourism industry, but this time shifts the focus to the West Highland Way in Scotland.	Study the course content for this week's lesson and check any words you do not understand. 90分.	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Students will make their final presentations on a topic related to British culture.	Prepare for the presentation and begin preparing for the final test.	Reflect on the feedback provided on the presentation and prepare for the final test.
担当教員			
第15回	Students complete the final test.	Prepare for the final test.	Reflect on the course content as a whole and in particular think about the final test and avenues for improvement.
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%; midterm assessments: 40%; final assessments: 40%	

その他	0	
教科書		
none		
参考文献		
none		
履修条件・留意事項等		
none		
備考欄		
none		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		ヨーロッパ地域論				ナンバリング	2818
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						
授業の位置づけ							
この科目は「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」や「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感性を備えている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、近代世界において重要な役割を果たしたヨーロッパ地域の社会と文化の特色について学習する。近代の思想や制度の重要な柱であるヨーロッパの社会と文化について学ぶことは、現代の私たちが寄って立つ国家や社会の考え方が、どのような背景から生まれてきたのかを理解することでもある。北海道とも経済的な結びつきを強めているヨーロッパ地域の特徴について、ヨーロッパ全体と各国について具体的に学ぶ。							
到達目標							
学生が、ヨーロッパの地域文化の特徴についてある程度の具体的事例を挙げて説明することができることを到達目標とする。ヨーロッパの文化の全体的共通性と各国や各地域の違いについて、具体的かつ抽象的に論じることができるようになることを目的とする。							
授業の方法							
印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。 授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。 授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。							
ICT活用							
ヨーロッパ地域文化に関連する国家や機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・導入～「ヨーロッパとは何か？」 ヨーロッパという概念の強ささと曖昧さに私たちはあまり真正面から向き合っていない。明らかに近代世界の意味の中心の一つであるヨーロッパとは通史的にどのような存在であったのか。また経済的に縮小する現在のヨーロッパが文化や国際社会で果たしている役割について外観する。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	＜第1部 古代ギリシア・ローマ＞ ・古代ギリシア～ヨーロッパ思想の起源 古代ローマや中世イスラーム世界にも大きな影響を与えた古代ギリシア世界の思想・哲学は、今日の世界においても知の大きな一角を占めるものである。ソクラテス、プラトン、アリストテレスを始めとした現代の学問にもつながる、古代ギリシア世界の思想と科学の系譜を俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・古代ローマ～「ヨーロッパ」の範囲の原型としてのイギリス産業革命までその文明の水準にヨーロッパが及ぶことがなかった古代ローマは、のちのEUにまでつながる広域ヨーロッパの一つの原型である。その古代ローマの技術、社会、文化、宗教の変遷などから、今日に至るその版図に共通する文化を「古代ローマの跡地としてのヨーロッパ」をキーワードに解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	＜第2部 中世ヨーロッパ・ルネッサンス＞ ・中世ヨーロッパ～帝国が減じた後に残る文化圏域としての西ローマ帝国が減亡した後も、ローマ帝国の国教であったキリスト教はこの地域の文化と社会の支柱として、ヨーロッパを覆うものとして残っていく。暗黒時代ともいわれる中世ヨーロッパの世界観について、各分野の特徴から迫っていく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	・ルネサンス～イスラムとの交流と再発見のプロセス ヨーロッパ文化の一つの特徴として、外部世界の文化の接触や影響を精力的に飲み込み、自分の文化に取り入れて活力とする雑種性が挙げられる。ルネサンスは、十字軍などのイスラムとの交流の中から、異文化の中に自文化の起源を発見する過程として、その後のヨーロッパ文化を花開かせる大きな起点となる。そのダイナミズムを追う。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・プロテスタンティズムと資本主義の発生 イスラムとの交流とならんで、ヨーロッパにインパクトを与えたものとしてモンゴルの侵攻が挙げられる。ペストの拡大や、神や教会、身分制の失墜は大きな社会変化としての宗教改革を巻き起こす。そして、プロテスタンティズムは今日の資本主義につながる思想と行動を内包していることに、ウェーバーを手がかりに接近する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	・ヨーロッパ芸術に見る南から北への流れ 古代から中世、そしてルネサンスまで長い間アルプス山脈はヨーロッパの文化と文明を分ける大きな地理的境界線であった。ヨーロッパの芸術が、北から南への憧れで生成してきた側面、また南が芸術の発展について大きな原動力になってきた様子を具体的な事例を挙げながら解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第3部 現代ヨーロッパの各国文化＞ ・イタリア かつてローマ帝国の中心だったイタリア。その帝国時代から続く人々や文化の交差点としての役割は、古くてそして新しいイタリアの魅力として、今日も変わることなく息づいている。難民や移民にも比較的寛容と言われるイタリア人気質の根本に各分野の事例から迫る。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・スペイン・ポルトガル かつて世界を二分した海洋大国のポルトガルとスペイン。戦国時代から江戸時代にかけては、この両国の言葉が世界共通語の役割を果たすほどであった。海に囲まれた二つの国と日本との繋がりは多く、食文化や音楽など幅広い分野において共通点も多い。イベリア半島の文化と社会を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	・フランス～近代化の共通語 近代国家として、官僚制や常備軍などを整え、近代以降のドイツ語や英語などに様々な語を提供したフランス語。最先端のファッションや食が彩るパリから、美しい田舎の数々まで、フランス的なものとは何か、その魅力と特徴について学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	・ドイツ 法律や医学の分野で日本も大きな影響を受けたドイツ。プロイセン、ワイマール、ナチスそして現代ドイツと目まぐるしく変遷する近代以降のドイツ社会の特徴は何か。また、ドイツ的なものを定義するものとは何か。私たちとも、そして英語とも関係が深いドイツ文化について、各分野の事例を引きながら考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・イギリス 産業革命が始まった地として、日本の近代化に大きな影響を与えたイギリス。連合王国として様々な言葉や文化を融合させながら7つの海を支配した大英帝国を築き上げた、小さな島の文化的な多様性とは何か。世界最古の議会制民主主義の国の知っているようで知らない奥深さを、その伝統と革新から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	・北欧の文化 教育、福祉など豊かな生活が注目される北欧。その背景にある激しい歴史と厳しい自然環境は、意外と知られることがない。税金が重く、国民が幸せなこの地域に共通する社会哲学や文化とは何か。人間がより人間らしく、人間が幸せになるためのヒントを北欧の人々の思想と実践を学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたのヨーロッパ地域文化論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 ヨーロッパ地域文化の特定の時代や場所が他より重要ということはありません。ヨーロッパのどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文でヨーロッパ地域文化から何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「ヨーロッパと世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形のヨーロッパ文化論から、私たちがヨーロッパをどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%	

その他	0	なし
教科書		
参考文献		
履修条件・留意事項等		
ヨーロッパ地域の社会や文化にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		中国研究				ナンバリング	3820
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と特に関係がある科目である。2年次の東アジア地域論と連携している国際教養科目である。世界の地域の中で、中国の存在は今日ますます重要性を帯びてきている。国際性を身につけるうえで、中国の政治、経済や文化などの基礎知識は不可欠のものである。この授業では地域としての中国の諸特性を学ぶ。							
授業の概要							
この授業は、2年次の東アジア地域論での学びを基礎に、日本にとって政治的、経済的に重要なパートナーである中国についての理解を深める科目である。日本の隣国であり、アメリカと共に世界秩序の形成に重要な役割を果たすようになった中国の国内の政治体制や経済のあり方について、制度や思想の基礎を理解しつつ、現代のダイナミックな中国国内の社会変化や文化についても、最新のトレンドや事例をまじえながら学ぶ。							
到達目標							
中国の政治、経済、文化、社会などに対する理解を獲得し、講義で取り上げる内容について、自らの意見を述べるとともに議論に貢献することができる。							
授業の方法							
週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う(第7回と第14回)。 なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。							
ICT活用							
Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②第1回 中国に関する基礎的な知識を学ぶ。 中国の行政区分(省と省都、直轄市、自治区)について、それぞれの特徴を学ぶ。特に「少数民族」と各民族の集住地域について学び、「民族区域自治」という少数民族の統治政策を理解する。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(60分)	配布資料を熟読し、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第2回	第2回: 中国と諸外国との領土紛争について、歴史的文脈と関連付けてその成因を考える。そして、前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第3回「南北」と「東西」の差異 中国の北方と南方の地理的な境界線ー「秦嶺・淮河線」と、人口の分布状況を反映する「胡漢庸線」について学び、中国における格差問題を理解する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第5回	第5回 中国と周辺国との関係 古代シルクロードと中国主導の「一帯一路」構想と、日中関係の歴史について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第7回	第7回 プレゼンテーション1 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。(90分)
担当教員			
第8回	第8回 台湾問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第9回	第9回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第10回	第10回 香港問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			

第11回	第11回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第12回	第12回 中国の歴史と文化について学ぶ。「中華」、「儒教」などの概念について説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第13回	第13回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員			
第14回	第14回 プレゼンテーション2 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。最終レポートのテーマを決める。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、最終レポート課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考にレポートの執筆を準備する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行いません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(40%)	

その他	0	
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		
参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。		
履修条件・留意事項等		
1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東南アジア地域論				ナンバリング	2814
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Richardson Peter						
授業の位置づけ							
This course develops the language ability of students to the point where they will be able to understand, discuss, and reflect on some of the key topics and issues in Southeast Asian studies. 学術目的の言語使用に主眼をおいた英語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)							
授業の概要							
This course will begin with a focus on historical events in Southeast Asian history before moving on to an overview of various cultural, social, and political issues related to Vietnam, Myanmar, and Indonesia. The focus will then shift to a more detailed look at key aspects of Thailand and Thai culture.							
到達目標							
The aim of this class is to familiarize students with some of the most important issues in Southeast Asia while also providing an overview of some of the crucial points in Southeast Asian history.							
授業の方法							
The class will focus on building the necessary vocabulary for discussing Southeast Asia in English while encouraging students to grapple with some of the key topics related to countries such as Thailand, Myanmar, Indonesia, and Vietnam.							
ICT活用							
Students will be expected to use Google Classroom to study the key vocabulary and topic before each class. They will also be expected to do extensive online research in order to prepare for each lesson and consolidate their knowledge of the previous lesson.							
実務経験のある教員の教育内容							

none

課題に対するフィードバックの方法

All tests will be graded and shown to the students and students will be provided with feedback on their presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	This lesson introduces the course and the syllabus. Students will be told how the course will be graded, the rules for the course, and the types of topics that will be covered.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	This lesson focuses on a general overview of Southeast Asian countries and looks at some of the key current events.	Study the course content for week 2 and carefully check any words you don't understand. 90 分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	The lesson examines a very important and influential time in Southeast Asian history revolving around Angkor Wat, the temple complex in Cambodia.	Study the course content for week 3 and carefully check any words you don't understand. 90 分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第4回	This lesson examines the Vietnam War and its global significance and the lessons that can be learned from it. In addition, we will discuss the similarities and differences between the Vietnam War and the conflicts in Afghanistan and Ukraine.	Study the course content for week 4 and carefully check any words you don't understand. 90 分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第5回	In this lesson we will look at the political situation in Myanmar and the rise and fall of one of Southeast Asia's most iconic leaders, Aung San Suu Kyi.	Study the course content for week 5 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	This lesson focuses on the meaning of religious blasphemy in the context of Islam and Indonesia. We also discuss whether we should have laws against disrespecting religious beliefs and whether these kinds of laws are good or bad for society.	Study the course content for week 6 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第7回	Students deliver their midterm presentations on a topic that relates to an issue covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test and presentation. 90分	Reflect on your presentation. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第8回	Students complete the midterm test aimed at assessing how much students have understood and thought about the topics covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the midterm test. 90分	Reflect on your performance in the test. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第9回	The lesson examines a very important and influential time in Southeast Asian history revolving around Ayutthya, the former capital of Thailand.	Study the course content for week 9 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第10回	In this lesson we look at the political situation in Thailand and the impact of military coups and the power of the monarchy.	Study the course content for week 10 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			

第11回	This lesson focuses on popular tourist locations and briefly discusses the dark side of Thai tourism while also asking whether it is good for a country to have large areas that are designed primarily for overseas visitors.	Study the course content for week 11 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	The lesson introduces well-known dishes and popular drinks in Thailand.	Study the course content for week 12 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第13回	In this lesson we discuss the many supernatural beliefs that can be found in Thailand with special focus on the northeastern region.	Study the course content for week 13 and carefully check any words you don't understand. 90分	Review the lesson content and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Students deliver their final presentations on a topic that relates to an issue covered in previous lessons.	Review the content for the first half of the course and prepare for the final test and presentation. 90分	Reflect on your presentation. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
第15回	Students complete the final test aimed at assessing how much students have understood and thought about the topics covered in previous lessons.	Review the content for the second half of the course and prepare for the final test. 90分	Reflect on the content of the final test. Try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge and how to address them. 90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation: 20%, midterm test: 25%, midterm presentation: 15%, final test: 25%, final presentation: 15%	

その他	0	
教科書		
none		
参考文献		
none		
履修条件・留意事項等		
none		
備考欄		
none		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		北米地域論				ナンバリング	1810
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
HBUの方針に従い、北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につけることを目的としています。(思考力・判断力・表現力)							

Not part of teacher training curriculum. However, this class will improve knowledge of American culture, English language, and colloquial usage, so useful for teachers in training.

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive daily oral feedback during class time, plus graded quizzes and tests, and written responses to presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Introduce topic and Syllabus. TV history Background “Speak English Like an American” 1	Prepare “Speak Like an American” unit 2, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第2回	Birth of TV, the 50s—I love Lucy, Donna Reed, Father Knows Best	Prepare “Speak Like an American” unit 3, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第3回	Sixties: from Beaver to Munsters and Adams’ s—The Andy Griffith Show	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第4回	70s Part 1: New Sitcom familys: More clean, white, attractive, and idealized---Bradys, Partridge, Happy Days	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第5回	70s Part 2: Introducing Politics and Race—All in the Family, Good Times	Prepare “Speak Like an American” unit 6, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第6回	80s part 1: New Kinds of Happy Families: The Cosby Show, Full-house, Family Matters	Prepare “Speak Like an American” unit 7, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第7回	80s part 2: Darker side: From political intra family conflict of Family Ties to the first Anti-family family: Married with Children	Review, review, review!! (90 minutes)	Study for midterm!!!
担当教員			
第8回	Midterm	Prepare “Speak Like an American” unit 8, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第9回	90s: Going where other sitcoms couldn’t: The Simpsons	Prepare “Speak Like an American” unit 9, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第10回	Prepare “Speak Like an American” unit 10, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab 90 min.	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第11回	Beyond the Simpsons: 2000s-- Weird Animation and attack on tradition--- South Park and Family Guy	Cumulative review of Speak Like an American 1-10	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第12回	Looking at “difference” in sitcoms: Modern Family	Prepare “Speak Like an American” unit 11, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第13回	Class in sitcoms: Schitt’s Creek, Beverly Hillbillys	Prepare “Speak Like an American” unit 12, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第14回	Review	Cumultave review of idoms. (90 minutes)	prepare for final!!
担当教員			
第15回	Final	Make sure all late work is finished!	Turn in final work to teacher.
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 25 Final 25 Attendance and Participation 20 Quizzes 30	

その他	0	
教科書		
Receive handouts from teacher. Do not lose them!!!		
参考文献		
A good bilingual dictionary is recommended		
履修条件・留意事項等		
Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		ICTリテラシー				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
社会人基礎力として数理・データサイエンス・AIを理解する力を養うための科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
この授業は、現代の現代社会の情報化およびグローバル化によるICTの役割や影響を理解し、かつ、それらを活用しながら、主体的に対応できる能力と態度を育てることを目標とする。授業では、ICTがもたらした世界への影響と、情報化世界への適切な対応に必要な技術、倫理についての必要な知識の修得を目標とする。さらに発展したパソコンの能力及び情報活用能力を身に付けることを最終目標とする。							
到達目標							
数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。 数理・データサイエンス・AIを活用するあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化して説明することができる。							
授業の方法							
パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。一部のテーマについてはディスカッションを取り入れて学習を行う(第14回、第15回)。データ処理においてはパソコンを用いた演習を行う(第3回～第5回、第10回～第13回)。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全15回)。パソコンを用いた演習を行う(第3回～第5回、第10回～第13回)。Google Formのアンケート作成機能を用いて、提出されたAIの企画を共有する(第9回)。掲示板アプリを用いて意見を出し合う(第14回、第15回)。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データサイエンスの概要】ICT(情報通信技術)の進歩にともなうサイバー空間の創出、ビッグデータの特性(3つのV)、IoTについて理解する。また、サイバー空間の発展およびAI(人工知能)の発達によってもたらされる未来社会のコンセプトであるSociety 5.0をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。	教科書の第1章1.1, 1.3.1～1.3.3を読んでおく。また、「Society 5.0」について調べておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【AIとは、社会におけるAIの利活用】AI(Artificial Intelligence: 人工知能)とはなにかを理解する。また、AIテキストマイニング、AI翻訳などを使用することによりAI技術の有用性やその限界を体験する。さらにAIの利活用の事例を調べ社会におけるAIの有用性を理解する。	教科書の第1章1.1.3、第3章3.8.5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【データリテラシー・実データの特徴を調べる】データ分析全体の流れを理解したのち、RESAS, e-Stat等を利用してインターネットからデータを取得する方法を習得する。さらに表計算ソフトを用いてデータの可視化や基本統計量を確認しデータの特徴を調べる方法を修得する。	教科書の第1章1.3.5、第2章2.1、第4章4.1.1～4.1.3を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第4回	【データリテラシー・2変数の間の関係を調べる】2変数のデータの間の関係を調べる方法を学ぶ。そのために、表計算ソフトを用いた散布図の作成方法を修得し、散布図からわかること、相関と因果関係について学ぶ。	教科書の第2章2.2.1～2.2.3、2.4.1、第4章4.1.4を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第5回	【データサイエンスの手法と応用事例1】データサイエンスで用いられるいくつかの手法(回帰、決定木分析)とそれらのマーケティングへの応用事例を学ぶ。表計算ソフトを用いて実際に回帰分析を行う。	教科書の第3章3.2.1、3.2.2、3.6.1、第5章5.1.1、5.1.3を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【データサイエンスの手法と応用事例2】データサイエンスで用いられるいくつかの手法(クロス集計、クラスター分析、アソシエーション分析)とそれらのマーケティングへの応用事例を学ぶ。	教科書の第3章3.1、3.4、3.5、第5章5.1.2、5.1.4、5.1.7を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第7回	【AIの構成要素、AIの学習方式】AIに含まれる分析技術である機械学習の学習方式の違い(教師あり、教師なし、強化学習)を理解し、それらの代表的な手法を概観する。また、機械学習の中で最近発展を遂げたニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。さらに機械学習における結果の検証方法を習得する。	教科書の第3章3.8.1～3.8.4を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【AI利活用の現場1ー識別系、予測系AIの作り方】AIの活用タイプの違い(識別系、予測系、会話系、実行系)を学ぶ。これらのうち予測系AIの作り方の流れを概観し、この流れの中で重要なAIモデルの精度検証方法を習得する。また、識別系AIの作り方の流れを概観しアノテーションについて理解する。	AIがどのような分野で活用されているかを調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	【AI利活用の現場2ー会話系、実行系AIの作り方】会話系AI、実行系AIの作り方の流れを概観する。 【AIの企画作成方法】AIを活用した企画の作成方法を理解し、AI活用事例をもとにした企画の作成を行う。	AIを利用すると改善がみこまれることはなにかを考えておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第10回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。また、Python言語を用いて、プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐を体験する。さらにAIの開発の道具がプログラミングであることを理解する。	教科書の第4章4.3.2を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第11回	【Pythonを用いたデータの処理】Python言語を用いて、プログラミングの基本のうち反復処理を体験する。また、Python言語におけるライブラリーの特徴を学ぶ。さらに、Google Colaboratory上のPythonを用いてExcel形式等のデータファイルの読み込み、データの基本統計量の計算、Python用のMatplotlibというライブラリーを用いたグラフの作成を体験する。	教科書の第2章2.4.4、第4章4.3.3～4.3.5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	【データの分類を行う機械学習の様々な手法】プログラミング言語であるPython用のscikit-learnというライブラリーを用いて機械学習の様々な手法(データの分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどおよびデータのクラスタリングを行うk-means法)の特徴を理解し、それらの実装を体験する。さらに機械学習で問題となる過学習について理解する。	教科書の第4章3.2.6と4.3.4を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第13回	【ニューラルネットワークを体験する】A Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。また、ニューラルネットワークをPythonで実装しデータの分類を体験する。さらに、ディープラーニングを用いた画像認識の概略について理解する。	教科書の第3章3.7.1を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性・透明性・説明可能性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI(Ethical:倫理的、Legal:法的、Social Issues:社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性とデータバイアス、AIの透明性・説明可能性などについて学ぶ。	教科書の第1章1.2.1、1.2.2、1.2.5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIに関する社会的課題】AIに関する様々な社会的課題(AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	教科書の第1章1.2.6を読んでおくとともに、AIが普及することによってどのような負の側面があるかを調べておく(90分)。	授業で行った全範囲と提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	

その他	0	なし
教科書		
データサイエンス入門 第2版／竹村彰通他／学術図書出版社		
参考文献		
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 文系AI人材になる／野口竜司／東洋経済新報社 本橋洋介「人口知能システムのプロジェクトがわかる本」／本橋洋介／翔泳社 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		
CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		インターンシップ				ナンバリング	2420/1144
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、小西 正人、渡部 淳、宮本 融						
授業の位置づけ							
卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組や規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。また、学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につけていく。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組や規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。 学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。							
到達目標							
・就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかを討議できるようになる。 ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。 ・自身に足りない力や強みを自覚し、今後の大学生活で身につける力や伸ばすべき力を把握し、目標を明確化する。 ・プレゼンテーション能力を身につける。							
授業の方法							
「事前指導」「企業研究」「インターンシップ」「報告会」の4つの方式で行う。 「報告会」では、行ってきたことのプレゼンテーションと、複数のチームに分かれて、得てきた学びやスキルを共有するためのグループディスカッションを行う。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

受入先からの評価票を本人宛に配布するので今後のキャリア養成の参考とする事。必要に応じ個別に担当教員から別途の指導を行う事もある。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜ガイダンス／小山田・宮本・小西＞ これから学ぶこと、到達目標、講義方法、評価方法等について概説する。 ※夏季休暇等を利用して集中的に実施する実習が主になることから、ガイダンス等で配布する資料や掲示等に注意を払うこと。 なお、コロナ禍であるため、各内容については、間際で変更される場合もある。	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	これまで取り組んだことを復習しまとめること(90分)
担当教員			
第2回	＜事前指導／小山田・宮本・小西＞ 1. インターンシップ参加手続き、ビジネスマナー等について 2. インターンシップ先企業等の企業研究について	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	＜企業研究／小山田・宮本・小西＞ インターンシップ先企業等の企業研究 事前に希望先の受入先の内容を確認しておく事。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	＜企業研究／小山田・宮本・小西＞ インターンシップ先企業等の企業研究 事前に受入先の内容を確認しておく事。	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	＜インターンシップ／小山田・未定＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)	
担当教員			
第7回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)	
担当教員			
第8回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	＜インターンシップ／小山田・未定＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	＜インターンシップ／小山田・未定＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	＜インターンシップ／小山田・未定＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	＜インターンシップ／小山田・宮本・小西＞ 企業、NPO等での修業体験実習	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	＜報告会／小山田・宮本・小西＞ ・インターンシップ報告会を実施 →各自、プレゼンテーション能力の向上に努めること ＊報告会については、学内に掲示板等で告知し、興味関心のある学生に参加してもらう ・知識とスキルの共有 →複数のチームをつくり、グループワークを行う。プレゼンテーションでは聞け出せなかった細かな情報も共有し、各自の知識とスキルを向上させること	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習態度、実習日誌、実習報告書、報告会発表、受入先企業等からの評価などにより総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
〈履修条件〉各科目の単位が修得できている学生、インターンシップ参加企業の希望条件にあう学生など。〈留意事項等〉履修登録者へ、インターンシップ参加企業の希望を伺う。その後、面談を行った後、インターンシップ先企業と協議して派遣する学生を決定する。＊詳細は、後期オリエンテーションでお伝えする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		マーケティング論				ナンバリング	3434/3676
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香、芝 香						
授業の位置づけ							
グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化を分析するマーケティング志向を学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。							
授業の概要							
この授業は、マーケティングの基本を学んだ上で、「21世紀型マーケティング」の概念を学ぶ。マーケティングの歴史とコンシューマリズムを踏まえ、マーケティングの神様と称されるフィリップ・コトラーの手法をベースに、実践的なマーケティング戦略を理解し、私たちの実際の生活の中でマーケティングがどのように生活に関わっているのかを学ぶ。							
到達目標							
本授業の到達目標は、以下の3点である。 1)授業やテキストで取り上げたレベルのマーケティングの基本的な考え方を説明できる。 2)企業の活動をマーケティングの視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。							
授業の方法							
授業では、パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進め事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。							
ICT活用							
本授業ではGoogleDirveやGoogle Docs、Office365などのクラウドサービスを中心としたOfficeツールを積極的に活用した授業を実施する。具体的には、GoogleClassRoomを用いて事前課題、事後課題を提出するなどの学習管理を実施し、課題にはGoogle SpreadやMicrosoft PowerPointでのプレゼンテーション資料の作成に取り組み、プレゼンテーションをグループ毎に発表するなどのアクティブラーニング型授業を実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営や人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクションとして、マーケティング論の授業の概要と進め方を説明する。 マーケティングとは何か。マーケティングの発想と市場戦略としてのマーケティングの役割と課題について学ぶ。	「マーケティングとは」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	環境分析(PEST、SWOT) 競合他社の動向や、政治や経済の変化など、自社の事業運営に影響をもたらす要因を分析する「外部環境分析」をPEST分析やSWOT分析のフレームワークを学ぶ。	「PEST分析、SWOT分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	環境分析(Five Forces) 5つの視点から自社と競合他社の関係を明らかにしマイクロ視点での外部環境を分析するファイブフォース分析のフレームワークを学ぶ。	「環境分析(Five Forces)」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第4回	事業戦略(STP) Segmentation(セグメンテーション)、Targeting(ターゲティング)、Positioning(ポジショニング)という3つの視点で市場における顧客やニーズを整理し、ターゲット市場を明らかにするSTP分析のフレームワークを学ぶ。	「事業戦略(STP)」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第5回	第2回～第4回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第2回～第4回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	ケース教材を提示するので、第2回～第4回で学んだフレームワークを用いて各自で分析を行いレポートを作成する。(120分)
担当教員	芝 香		
第6回	マーケティング戦略(製品と価格) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「製品(Product)」「価格(Price)」の戦略について学ぶ。	「製品戦略、価格戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第7回	マーケティング戦略(広告) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」の戦略として広告戦略、パブリシティ戦略について学ぶ。	「広告戦略、パブリシティ戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	マーケティング戦略(チャネル) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」戦略としてのチャネル戦略を学ぶ。	「チャネル戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	マーケティング戦略(プロセス) これまでに学んだマーケティング分析のフレームワークをより効率的に分析するための一連の流れとしての手順や考え方を学ぶ。	「マーケティングプロセス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第10回	第6回～第9回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第6回～第9回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	ケース教材を提示するので、第6回～第9回で学んだフレームワークを用いて各自で分析を行いレポートを作成する。(120分)
担当教員	芝 香		

第11回	顧客関係の構築(リレーションシップ) 顧客と良い関係を築いて距離を縮め、結果的に商品やサービスの成約率を向上させるリレーションシップ・マーケティングについて学ぶ。	「顧客関係の構築」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	消費者行動 企業が提供する製品やサービスを購入・利用する人々(＝消費者)が、一つの商品の購入に至るまでの行動について、購買行動モデルの考え方について学ぶ。	「消費者行動」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第13回	ブランド戦略 企業の製品やサービス、あるいは企業そのもののコンセプトを明確にして、「誰にどんな場面で使ってほしい製品なのか」「自分たちはどんな企業なのか」をユーザーにわかりやすく提示するブランディングの考え方を学ぶ。	「ブランド戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	リーンキャンパス 9つの項目からビジネスモデルをまとめるフレームワークである「リーンキャンパス」の考え方を応用することで、これまでに学んだマーケティング戦略を活用した実践的なマーケティング戦略の立案手法について学ぶ。	「リーンキャンパス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員			
第15回	第14回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第14回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	ケース教材を提示するので、第14回で学んだフレームワークを用いて各自で分析を行いレポートを作成する。(120分)
担当教員	芝 香		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性やプレゼンテーションを総合的に評価する。 したがって、課題を提出しない場合には出席日数が規定を充たしていても不合格となる場合があることに留意すること。	

その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		
授業内で資料を提示する。		
履修条件・留意事項等		
本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座 I				ナンバリング	3441/1146
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、高橋 保夫						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。							
授業の概要							
この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。							
到達目標							
大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。 公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。							
授業の方法							
配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	判断推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	図形(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	図形(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	世界史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する 課題レポート(チャレンジテスト)等	

その他	0	
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用		
参考文献		
講座中に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
留意事項等 全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座Ⅱ				ナンバリング	3442/1147
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小山田 健、高橋 保夫、小山田 健						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。							
授業の概要							
この授業は、主に国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための授業で、「公務員講座Ⅱ」と連動する。公務員試験に合格するためには、幅広い一般常識と高度な専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。授業は講義形式で公務員試験の出題範囲を網羅すべくポイントを解説していくので、受講者は予習復習はいうまでもなく、すべての課題に深く取り組んでいくこと。数回行う確認テスト以外にも自己研鑽していくことを求める。							
到達目標							
大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる学力の修得を目標とする。 公務員をいう仕事に対する理解が深まり、公務員を志す理由が明確になり、合格するにはどのような努力が必要なのか明確になる。							
授業の方法							
配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。春季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	政治経済(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	政治経済(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	政治経済(5) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済(6) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	時事(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業への参加姿勢／意欲を総合的に評価する	

その他	40	課題レポート(チャレンジテスト)等
教科書		
資格の大原 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		
講座中に適宜指示する。		
履修条件・留意事項等		
全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、開講時期・場所等について学科掲示板での告知に注意を払い、初回ガイダンスには必ず出席すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語の表記と語彙				ナンバリング	1322/2262
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
この授業では、学術目的および社会生活の言語使用に主眼をおいた日本語の高度な運用能力を中心に、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけることを目的とする科目であり、他の日本語系の科目と関連する。							
授業の概要							
この授業は、社会人基礎力に欠かせない正しい日本語表記を身に付け、場面や目的に合わせた語彙を増やしていく。講義と演習を組み合わせ、漢字検定あるいは日本語検定2級程度の漢字・表記・語彙・言葉の意味および公務員試験等で一般常識とされる日本語運用に関する漢字語彙の定着度を測る。本授業の漢字リテラシー基準には、常用漢字、人名・地名漢字、時事用語などの現代日本語漢字の正しい読み方と、四字熟語および諺・故事成語などの意味理解も含め、公的な場面で使える語彙を増やしことばの使い分けを身に付けていく。							
到達目標							
1. 社会人基礎力となる一般常識とされる常用漢字が定着し、一般的な四字熟語が運用できるようになる。 2. 漢字のしくみを理解し、未知の漢字でも読み方を推測できるようになる。 3. 日本語の語彙を増やし、いろいろな表現で自己や出来事を知的に描写できるようになること。							
授業の方法							
板書を通じた講義、グループワーク、プレゼンテーションを通じて15回の授業を行う。							
ICT活用							
Google classroomを活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

小テスト等の提出物は全て採点して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業のやりかた、発表のしかた、評価方法、この授業の意義などを丁寧に講義する。	シラバスを読んでおく(30分)	配布プリントを読み課題に取り組む、発表グループを決める(150分)
担当教員			
第2回	漢字のしくみ、音訓概講(講義) 漢検教科書 ステップ1～4 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第3回	表記・送りがなについて(講義) 漢検教科書 ステップ5～8 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第4回	常用漢字について(講義) 漢検教科書 ステップ9～12 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			

第5回	第1回漢字復習確認テスト(ステップ1～12)・語彙テスト 漢字熟語について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備、担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第6回	漢検教科書 ステップ13～16 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第7回	漢検教科書 ステップ17～20 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	確認テストの準備、および教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および確認テスト・教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第8回	漢検教科書 ステップ21～24 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第9回	第2回漢字復習確認テスト(ステップ13～24)・語彙テスト ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備、担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第10回	漢検教科書 ステップ25～28 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第11回	漢検教科書 ステップ29～32 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解く(90分)
担当教員			
第12回	漢検教科書 ステップ33～36 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解き、復習確認テストの準備(90 分)
担当教員			
第13回	カタカナ語(講義) 漢検教科書 ステップ37～41 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	教科書該当部分の問題を解き、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解く(90分)
担当教員			
第14回	人名・地名漢字(講義) 漢検教科書 ステップ総復習 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語 グループ発表	人名・地名漢字について事前調 査、教科書該当部分の問題を 解く、担当者は発表の準備(90 分)	講義内容・配布プリント復習、お よび教科書該当部分の問題を 解き、復習確認テストの準備(90 分)
担当教員			
第15回	第3回漢字復習確認テスト(ステップ25～41)・語彙テストお よび復習	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備(90分)	漢検教科書の総復習および最 終提出課題の準備(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	漢字復習確認テスト、毎回の小テスト、グループ発表、最終課題など各種課題、授業参加度の 総合評価	

その他	0	
教科書		
『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』／日本漢字能力検定協会 『日本語検定公式領域別問題集 改訂版 語彙・言葉の意味』／畑 恵里子（編集），日本語検定委員会（編集）／東京書籍		
参考文献		
常用漢字表（文化庁） 『全訳 漢辞海 第四版』／戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編／三省堂		
履修条件・留意事項等		
とにかくいろいろ手を動かす作業をしてもらおうと思っています。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語ビジネスライティング				ナンバリング	3306
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						
授業の位置づけ							
出口教育の一環として、文章作成能力をみがく科目である。ディプロマポリシーの、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている【知識・技能】」と関連があり、ビジネスシーンに羽ばたく上での文章作成能力を習得する科目である。							
授業の概要							
本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。							
到達目標							
・社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できるようになる。 ・各講義の目標とするライティング技術を習得し、実際的な文書作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びが出来るようになる。							
授業の方法							
1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を毎時間行う。 3.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて締め切りまでに提出する。							
ICT活用							
・課題作成・提出・評価はGoogle classroom の諸機能を用いて行う。 ・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。
- ・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	就職課と連絡が取れるようになる。 就職課へのメールアドレス(携帯電話)登録を通して依頼文のメールを学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第2回	先輩に聞いてみよう。 大学内外の社会人に、職場や業界などの状況を聞き取り、「働くこと」のイメージを学ぶ。 事前の依頼状、事後の礼状など、手紙やメールにおける正しい言葉遣いを学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第3回	企業分析ノートを作ろう。 「先輩に聞いてみよう」で収集した情報や自分で調べた事柄をもとに、書式に則った作成方法を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第4回	自己PR(1) 自己分析や他者評価を通して、自身のアピールポイントを明確にする方法を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第5回	自己PR(2) 前回で可視化されたアピールポイントを、読者(企業採用担当者)に、十分に伝わるように文章化する方法を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第6回	エントリー(プレエントリー) 疑似エントリーシートに、就職志望者として登録する過程を体験し、実際のエントリーにつなげる方法を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第7回	会社説明会に参加しよう。 説明会申込から始まる一連の流れの中で必要とされる文書の作成を体験し、その体裁を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第8回	エントリーシート(1) 「書面での面接」とも言われるエントリーシートの目的、種類、入手方法、提出方法などの多様な形を学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第9回	エントリーシート(2) 過去の講義内容で習得した事項を応用し、文章によるエントリーシートの作成を体験を通して学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第10回	履歴書・自己紹介書 過去に作成した経験や講義内容を生かし、手書きで読みやすく書けるように練習を通して学ぶ。	配信教材の予習(90分)	配信教材の作成・提出(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第11回	内定関連文書 上記に関連する様々な種類の文書について学ぶ。 文書名の中から各自に関連深い文書の形式を実作を通して学ぶ。	配信教材の予習 (90分)	配信教材の作成・提出 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第12回	ビジネスメール(1) 礼状と報告書 上記について理解し実際に作成することを通して学ぶ。	配信教材の予習 (90分)	配信教材の作成・提出 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第13回	ビジネスメール(2) 依頼状 上記について理解し実際に作成することを通して学ぶ。	配信教材の予習 (90分)	配信教材の作成・提出 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第14回	手紙・添え状・封筒 上記の型を知り、実際に作成することを通して学ぶ。	配信教材の予習 (90分)	配信教材の作成・提出 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
第15回	まとめ 作成課題の最終チェックとまとめ問題への取り組みを行い 自己評価することを学ぶ。	配信教材の予習 (90分)	全課題の提出 (90分)
担当教員	矢部 玲子		
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたものを定めた期限内に提出する。 指示された課題をすべて提出した場合評価の対象とする。	

その他	0	出席率66%以上を評価対象とする。
教科書		
なし。		
参考文献		
必要に応じて提示する。		
履修条件・留意事項等		
卒業後就職する予定の学生(大学院等進学希望者は除く)の履修が望ましい。 講義内容や順番等は状況に応じて変更される場合がある。 必要に応じて教材配信システムを活用する。 出席率66%以上で、指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。 連絡はGoogle classroomで行う。メールが届いたか、返信は必要か、等を常にチェックするように。 メール等での問合せ等には必要に応じて対応する。 メール等での言葉遣いには十分に注意すること。不適切な言葉を使用した場合は、減点の対象とし、度重なる場合は単位認定しない場合もある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語学				ナンバリング	2324/2274
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						
授業の位置づけ							
日本語について、ことばの専門家として必要不可欠な知識を修得し、正しい考え方を導く科目である。この科目は、学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力、北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける科目であり、他の言語・語学系科目と関連する。							
授業の概要							
この授業は、言語学的な考え方を基本として、現代日本語の文法に関するさまざまなトピックについて講義する。日本語についての知識を深め、英語(および言語)について実践に応用可能な知識及び技能を身につけること、および問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができること、および学びの成果を社会人生活の中で活かすことを達成する科目である。なぜわざわざ日本語の文法構造を学ぶ必要があるのか、そもそも文法は必要なのかなどの疑問や批判に答え、日本語をはじめとする言語の精妙さを、現代日本語を通じて講義する。							
到達目標							
1. 日本語について正しい視点をもち、応用することができる。 2. 日本語について正しいデータ収集を行うことができる。 3. ことばに対して正しい分析を行うことができる。 4. 日本語(あるいはことば)に対する謬見を排除できる。							
授業の方法							
板書と視聴覚メディアを活用しながら、講義形式ですすめる。また毎回ノート(課題および「さらに考えたこと」を含む)およびコメントシートを提出してもらい、理解度を確認する。							
ICT活用							
Google workspaceを活用する(Google Formでの設問・コメント収集、Google classroomを通じた情報提供など)							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらうノートおよび授業に対するコメントを授業内でとりあげ、それぞれについて回答および示唆、参考資料の紹介などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「タブラ・ラサからはじめよう！」～日本語学とは「主語」や「名詞」などといわれる文法は誰のためのものなのか？ということについて、それぞれ考えてもらう。データとして「文の中で出てくる他の語とのつながり」を示してグループ分けを行う。また「頭が赤い魚を食べたネコ」という句をもとに構文論についてもふれる。	日本語について考えてくる(90分)	授業ノートに「そのあと考えたこと」を書き込む練習(90分)
担当教員			
第2回	「ぜーいん、起立！」～日本語の「音」を探してみよう 自分の口はどんな音を出しているのか、発音しながら確認する。補足資料としてIPAのチャートを用いる。これにより日本語(あるいは言語)の音声についての基礎感覚を身につけることができる。	日本語のサ行とハ行について考えてくる(90分)	課題として与えられたIPAを発音できるようにしてくる(90分)
担当教員			
第3回	「トマトの反対はトマト？」～日本語のアクセント 2音節語を中心に、日本語のアクセントの概要について自覚的になることができる。データとして2音節語のリストを用い、学生自らの内省をもとに分類を行ってもらう。おまけとして方言および歴史的なアクセントについての話を行う。	「～ちゃん」のアクセントについて考えてくる(90分)	「〇〇県」と「〇〇」のアクセントについてまとめる(90分)
担当教員			
第4回	「塗り薬、粉薬、咳止め薬、便鼻薬」～日本語の形態論 無意識に用いている「語より小さい単位」が組み合わせることにより、生産的にいろいろなことを表すことができるようになることを実感／確認できる。また世界の言語について「長い語」の紹介を行う。	長い語を見つけてくる(90分)	日本語における蔓苔桃形態素を自力でみつける(90分)
担当教員			

第5回	「動詞は動作を表す語？」～ 日本語の品詞について そもそも名詞や動詞という分け方は誰のためのものか、という視点を徹底することによって、自分が母語話者として使っている無意識の「品詞分類」を実感することができる。第1回の授業をさらに進めた内容。	品詞はあったほうがいいのか、主張およびその理由を考えてくる(90分)	品詞分類におさまりきらない語を見つける(90分)
担当教員			
第6回	「壊したんじゃない、壊れたんだよ！」～ 日本語の自他対応動詞 日本語にみられる自他対応動詞について、その認知的意味、および外国語との関係を見ることにより、言葉の認知的基盤を確認する。	日本語以外の自他対応について考えたり調べたりしてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第7回	「食べさせられはじめていたらしいわよね」～ 述語の階層 長い用言複合体述語を生産することのできる日本語の特徴をみるとともに、言語がどのような階層をもっており、それに基づいて設計されているかを繙く。	用言の前と後ろにつくことができるものをできるだけ多く見つけてくる(90分)	用言に後接する要素がそれぞれの階層までを許容するか、丁寧に調べてくる(90分)
担当教員			
第8回	「舞台→で→激しく→踊る→人を→見る」vs. “to see ← a person ← dancing ← hard ← on ← the stage” ～ 主要部とそれ以外 言語能力の秘密のひとつである「主要部」について、類型論的な偏りを紹介しながら、言語の深奥にふれる。日英語にとどまらず、韓国語・中国語・フランス語まで紹介する予定。	日本語と英語はどこが違うか、具体的に数項目を挙げる(90分)	主要部とそれ以外の順序が例外的である場合を日本語・英語・その他の言語において挙げる(90分)
担当教員			
第9回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について 我々は全くの白紙状態から言語を修得していくのではなく、ほとんど完成した状態で生まれてくるという論を紹介し、議論する。またいわゆる臨界期についても考え直す。	赤ちゃんがことば(特に文法)を修得するときどのように修得するか、一生懸命考えてみる(90分)	「そのあと考えたこと」をがんばって書く(90分)
担当教員			
第10回	「ええっ、あれで『そば』って読むの！？」～ 日本語の表記 ひらがなとカタカナの歴史を講じるとともに、数種の文字を使い分ける表記体系をもつ日本語について改めて考え、漢字の音訓や万葉仮名、キラキラネームのしくみについての見方を変える。また日本語史についても簡単に論じる。	ひらがなとカタカナの歴史について調べる(90分)	万葉仮名と変体仮名について説明できるようにする(90分)
担当教員			

第11回	「日本語はウラル・アルタイ言語です・・・か？」～日本語のなかま 印欧語における系統樹の考えを基本に説きながら、日本語の系統について、中国語や韓国語との対比を考えながら、一定の結論を出す。	日本語のなかまにはどんな言語があるか、理由つきで考えてくる(90分)	中国語や韓国語との対比を考え、一定の結論を出す(90分)
担当教員			
第12回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～日本語の方言方言周圏論などの理論および標準語の歴史を紹介しながら、北海道の方言、および関西の方言、さらには琉球諸語について考える。また方言について、その「役割」について各自が自分のこととして考える。	日本になぜ方言があるのか、考えてくる(90分)	配布課題プリントに基づいて、方言について考えてくる(90分)
担当教員			
第13回	「全然OKって全然OKですか？」～正しい日本語論巷間でよく話題にされる「ら抜き言葉」や「全然＋肯定」表現を取り上げ、正しい日本語について一定の妥当な意見をもつことができるようになる。	「正しい日本語」があるかどうか、理由つきで考えてくる(90分)	微妙な日本語・楽しい日本語を見つけてくる(90分)
担当教員			
第14回	「イヌイットの人には雪が見えないって本当ですか」～いわゆる俗説の検討 ほかに「が」と「は」は主語である、「ありがとう」と声をかけると桃が腐らない、などのトンデモ言説を取り上げ、言語リテラシー能力をつける。	事前配布プリントの項目について調査してくる(90分)	しっかりと言語リテラシー能力がついたか、チェックする(90分)
担当教員			
第15回	「コロナってしたらコロコロしたからバーって行ってギョッてしたの」～オノマトペの世界 日本語のオノマトペ(の構造・体系)を中心に、いろいろなオノマトペについて考える。	印象的なオノマトペを調べてくる(90分)	他言語のオノマトペについて調べてみる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期テストは実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(レポート、小課題)およびノート、授業参加度などの総合評価とする。	

その他	0	
教科書		
授業中にハンドアウトを配布する。		
参考文献		
よくわかる言語学／窪菌晴夫[編著]／ミネルヴァ書房 基礎日本語学／衣畑智秀編／ひつじ書房 はじめて学ぶ言語学／大津由紀雄編著／ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
教室の中だけでなく、ふだんからいろいろな言葉に興味をもつようにしてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法Ⅱ				ナンバリング	3352
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						
授業の位置づけ							
この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法1」に続く発展科目であり、実践的な「日本語教育演習」科目への基礎となる。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)ために、ここでは音声指導法を中心に学ぶ。							
授業の概要							
この授業は、「日本語教育法Ⅰ」に続き、日本語を母語としない人々に効果的に日本語を教えるために、代表的な外国語教授法の理論とその応用で、学習ニーズ別の日本語教育方法を学ぶ。受講生は未知の外国語をいろいろな教授法で学習体験し、各教授法の短所・長所の特徴や学習心理を振り返ることで、言語を教える側と学ぶ側の両者の立場から教授法のいろいろを概観していく。そして受講生の模擬授業とベテラン教員の授業動画を比較して日本語学習支援のあり方を考えていく。							
到達目標							
1. 日本語初級レベルの指導ができる。 2. 日本語学習目的別に適した教材が選択できる。 3. 日本語学習レベルに対応した練習教材が選択できる。 4. 学習項目に合わせた練習方法に種々の教授法を工夫することができる。							
授業の方法							
講義プリントとスライドを使った講義形式とその応用演習をペアまたはグループで行う。応用演習は課題項目を指定し、授業内で発表する。各回では授業内容復習の小テスト(確認テスト)を行う。							
ICT活用							
学習項目別に指導方法の実際を学ぶため、動画サイトからモデル授業を視聴する。 Google Classroomを活用して、授業内容の質問のほか、課題および講義資料等を配信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時までにコメントを添えて個別に返却する。課題発表は発表終了後に授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 多様化した日本語教育の現状と課題	文化庁サイトで国内の日本語教育事情を調べておく。(90分)	国内の多様化する日本語学習者の学習背景を確認しておく。(90分)
担当教員			
第2回	日本語をどう教えるか 学習者別コースデザインとカリキュラム	日本語能力試験のN4、N3、N2レベル範囲をCEFRに対応してみておく。(90分)	プリントを読んでおく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語教育教材からⅠ 初級会話と練習方法	代表的な教授法を復習しておく。(90分)	コミュニケーションアプローチと練習方法例をまとめておく。(90分)
担当教員			
第4回	日本語教育教材からⅡ 初級文法と動詞の活用練習	日本語初級教材から、定着が難しい文法事項を調べておく。(90分)	動詞の活用ルールと教え方をまとめておく。(90分)
担当教員			

第5回	日本語教育教材からⅢ 初級文法と動詞の分類と運用練習	自動詞・他動詞の分類方法を調べておく。(90分)	自動詞・他動詞の練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第6回	初中級の教え方 初級レベルから中級レベル移行の壁	中級とはどんなレベルか調べておく。(90分)	やさしい日本語ニュースを中級レベル教材に加工しておく。(90分)
担当教員			
第7回	中級の教え方Ⅰ 文型表現のいろいろ	日本語文型を30以上調べておく。(90分)	文型練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第8回	中級の教え方Ⅱ コミュニケーション能力を育てる指導方法	外国語学習でのコミュニケーションで困ったことを思い出しておく。(90分)	コミュニケーション能力とは何かをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	中級の教え方Ⅲ ライティングと誤用訂正	プリントを読んでおく。(90分)	誤用訂正課題を完成しておく。(90分)
担当教員			
第10回	中級の教え方Ⅳ 聴解練習用の教材の選び方	中級聴解教材を1冊選び、語彙表現をチェックしておく。(90分)	テレビドラマや報道番組からタスク・リスニング教材として使用できる部分を一つ選ぶ。(90分)
担当教員			

第11回	日本語教育教材分析Ⅰ 児童・生徒用教材と生活者向け教材	国内で日本語教育が必要な児童・生徒の現状を調べておく。(90分)	児童・生徒用の日本語教材と英語教材を比較しておく。(90分)
担当教員			
第12回	日本語教育の教材分析Ⅱ 医療／介護人材向け教材と、ビジネスピープル向けの教材	入管庁サイトで国内の外国人就労者の分布を調べておく。(90分)	業種別の日本語能力養成の課題をまとめておく。(90分)
担当教員			
第13回	日本語教育史Ⅰ 日葡辞典から戦時中まで	日葡辞典からその語彙表記や運用の解説文を見ておく。(90分)	日韓併合以降から戦時中のアジアにおける「ニッポン」語教育を調べておく。(90分)
担当教員			
第14回	日本語教育史Ⅱ 戦後から現在の多様化した日本語教育	文科省サイトで留学生の受入れ状況を調べておく。(90分)	国内で日本語を学ぶ人々の社会と学習環境を確認しておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 日本語を教えるとは、どのようなことか。 脱教授法は、何をどこまで、どう教えるかをディスカッションする。	日本語教育能力試験の過去問から、指定した教授法関連の問題を解いてみる。(90分)	日本語教育能力試験の過去問をすべてを解いてみる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表含む授業参加度60%、確認テスト40%。	

その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		
高見澤孟『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』2016、アスク出版。市川保子『中級日本語文法と教え方のポイント』2005、スリーエーネットワーク。庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』2005、スリーエーネットワーク。ほか、授業で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
「日本語教育法Ⅰ」に続く科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法Ⅱ（文章表現）				ナンバリング	1302/2265
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、幅広い教養を身につけるために、社会で必要となるスキルの一つである文章作成能力を習得する科目である。ディプロマ・ポリシーの「目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また「4技能(聴く、話す、読む、書く)の運用能力を高め、実践の場で活用することができる(知識・技能)」や、「グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神を持つことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。							
授業の概要							
本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、様々な文章の「型」を文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身に付けることを目指す。							
到達目標							
・社会に存在する様々な文章の「型」について分類することができるようになる。 ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実際的な文章作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。							
授業の方法							
1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自文章作成・添削・相互評価を、毎時間行う。 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。 4.全授業で数回文章作成能力到達度チェックを行う。 5.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて提出する。							
ICT活用							
必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	手紙文の型 手紙文の形式を理解し、心情を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.6-11の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第2回	ビジネス文書の型 ビジネス文書の形式を理解し、用件を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.12-15の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第3回	三段構成の型 「三段構成で書く」、「常体文で書く」、「一文を40字以内で書く」ことを理解し、これらの書式による文章作成を学ぶ。	PP.16-19の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第4回	原稿用紙を用いた文章作成の型 意見文視写を通して、原稿用紙を用いた日本語表記法に沿った文章作成を学ぶ。	PP.20-23の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第5回	新聞読者投稿欄の文章の型 新聞投書欄の文章作成を通して、客観的な視点で事実を書くことを学ぶ。	PP.24-25の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第6回	見ることと書くことの関係(1) 報道文 身近な事件に関するメモをもとに、報道文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことを学ぶ。	PP.26-27の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第7回	見ることと書くことの関係(2) 観察文 身近な対象に関する観察メモをもとに、観察文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことに習熟することを学ぶ。	PP.28-29の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第8回	インタビュー書き起こし文の型 履修者同士のインタビューと紹介文の作成を通して、聞き書きの手法による文章作成を学ぶ。	PP.30-33の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第9回	聞き書きの型(1) 前回の「インタビュー」を発展させ、「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を聞き書きし、記録する方法を学ぶ。	PP.34-35の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第10回	聞き書きの型(2) 「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を本人に代わって記録させてもらい、聞き書きとして完成させることを学ぶ。	PP.36-37の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		

第11回	論説文の型 論説文の型に沿って文章を作成することを通して、事実と意見を適切に書き分ける方法を学ぶ。	PP.38-41の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第12回	論文に挑戦！(1) 「はじめに」、「各章」、「考察」、「おわりに」等論文の形式や、書くための資料を入手する(ドキュメンテーション)の手法について学ぶ。	PP.42-45の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第13回	論文に挑戦！(2) 前回までの学習を生かし、形式に沿って論文作成に取り組む。	PP.46-47の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第14回	論文に挑戦！(3) 前回までの学習を生かし、論文形式の文章を作成し、完成させる。	PP.48-49の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
第15回	添削と推敲—まとめ— これまで学んだ文章表現にかかわる知見に基づき、習得した文章表現能力について、添削と推敲を通して自己評価することを学ぶ。	PP.50-51の熟読・理解・課題作成。指定された提出課題の完成。(90分)	指定された提出課題の完成・提出。(90分)
担当教員	矢部 玲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたものを提出する。 指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。	

その他	0	出席率66%以上を評価対象とする。
教科書		
「型」で身につける文章作成技術／矢部玲子／大学図書出版		
参考文献		
必要に応じて提示する。 必要に応じて教材配信システム等ICTを活用する。		
履修条件・留意事項等		
状況に応じて講義内容や順番等が変更される場合がある。 出席率66%以上で、指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。 連絡はGoogle classroom で行う。メールが届いたか、返信は必要か、等を常にチェックするように。 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。 メールでの言葉遣いには十分に注意すること。不適切な言葉を使用した場合は、減点の対象とし、度重なる場合は単位認定しない場合もある。		
備考欄		